



GOOD
HOLDINGS

SUSTAINABILITY REPORT 2025

グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート

Challenge To The Future

未来への挑戦

Challenge To The Future

未来への挑戦

グッドホールディングスグループは、創業以来、その時代の社会課題を解決することで事業を展開してきました。どんな時も、社会とその未来を見据え、解決すべき社会課題に真摯に取り組み、その度に自らも成長する。これが1953年から続く私たちの事業の軌跡です。

そして70年の時を経た今、未来の地球と、そこに生きる子どもたちのために、環境ビジネスがこれまでになく重要な役割を担う時代となりました。

2025年4月、グループ会社である株式会社リヴァックスのswell事業部が、株式会社swellとして新たなスタートを切りました。超強力吸引車やマルチ吸引車といった特殊車両を用い、これまで困難であった工場内設備に特化した清掃サービスを展開いたします。

私たちの使命は、子どもたち、またその子どもたちが暮らす社会をよりよいものにする環境ビジネスを創っていくこと。グループ7社となり、より力強い体制で社会課題解決に挑戦してまいります。

CORPORATE MESSAGE

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事がなんであろうと。
どこであろうと。はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、わずかだけ先に、
進ませるものであると信じたい。

捉えよう。
そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。
応えよう。
わたしたちにしかできない方法で。
超えていこう。
今あるわたしたちの姿を。

編集方針

「サステナビリティレポート」は、お客様をはじめ、地域住民の方々や従業員とその家族、ステークホルダーのみなさまにグッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長、企業価値向上の取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう毎年発行しております。
2024年度は、長期ビジョンプロジェクトに基づき、「Challenge to the Future (未来への挑戦)」をテーマに制作いたしました。

対象組織

グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社swell、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄衛生、株式会社大協（報告書は各社のホームページでも公開しております。）

対象期間

2024年度（2024年4月～2025年3月）※活動報告に一部2025年度を含む

発行月

2025年9月（次回：2026年9月予定）

対象分野

事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」

ガイドライン

GRIガイドライン第4版／環境省「環境報告ガイドライン」

本レポートでは、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目をもとに、「コーポレート・ガバナンス（組織統治、公正な事業慣行）」、「環境における取り組み（環境）」、従業員とともに（人権、労働慣行）」、「地域社会とともに（消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展）」のとおり、編集しております。

CONTENTS

- 01-02 未来への挑戦
- 03-04 トップメッセージ
- 05-06 経営理念／行動指針／SDGsへの取り組み
- 07-08 グッドホールディングスグループ概要／沿革
- 09-10 財務情報・非財務情報／2024年度トピックス
- 11-14 【特集】2025年4月、株式会社swell始動。

事業紹介

- 15-20 株式会社リヴァックス
- 21-22 株式会社swell
- 23-24 株式会社リリーフ
- 25-26 株式会社ダイキョウクリーン
- 27-28 株式会社大栄衛生
- 29-30 株式会社大協

- 31-32 サステナビリティ基本方針／ガバナンス／重要課題

ESGの取り組み

- 34-38 コーポレート・ガバナンス
- 39-42 環境における取り組み
- 43-47 従業員とともに
- 48-53 地域社会とともに
- 54-58 苦情・事故／ISO26000対照表

社会課題の解決を使命に 環境ビジネスに挑戦を続けます

グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤 健一



創業以来、社会課題に向き合い、 ビジネスを展開してきました

当グループは、創業以来、その時代の社会課題に向き合い、社会のニーズに応えるために社会課題解決型の環境ビジネスを構築、展開してまいりました。

高度成長期に創業し、一般家庭や事業所のごみが増え始めた時期に「ごみ収集事業」を開始、産業廃棄物の適正処理が求められた1970年代に「産業廃棄物処理事業」に着手、2000年に入ってから、高齢化社会における独居老人の孤独死問題、それに伴う遺品整理業者の不正請求問題が社会課題となったことから「おかたづけ事業」をスタートしました。

また、昨今の食品ロスの課題に取り組む「食品リサイクル事業」、飲食店の衛生を通じて地球環境保全に貢献する「グリストラップ清掃事業」、業界における深刻な人材不足に貢献する「エッセンシャルワーカーに特化した人材派遣事業」を展開しております。

リヴァックスの一事業部が分社化 株式会社swellが誕生しました

2024年度は、グループ各社がそれぞれ高い目標を設定し、見事に達成しました。特に、2010年に新規事業としてスタートした株式会社ダイキョウクリーンと株式会社リリーフは、高いレベルで事業の成長を遂げ、その存在感を強化しました。また、株式会社リヴァックスが運営するバイオガス発電プラントは2年目の稼働を迎え、運営を通じて多くの課題を学び、その経験は技術力の向上に繋がっています。

2025年4月には、株式会社リヴァックスのswell事業部が分社化し、株式会社swellとして新たなスタートを切りました。この分社化に伴い、各社の社長はほぼプロパー社員となり、30代から50代の社長たちが仲間として、またよきライバルとして各社の経営を指揮していきます。今後は、個性豊かなグループ6社がそれぞれの特色を生かして成長を遂げていくことになるでしょう。

「人材開発」の課題に グループ全体で取り組みます

外部環境においては、グループ全体における「人材」の課題が浮き彫りになりました。事業は大きく成長したものの、その成長に人材の確保と育成が追いついていないという問題が顕在化しました。これを受けて、2025年度には人材の採用、定着、育成といった課題に再度重点を置いて取り組む方針です。その一環として、グループ全体で「人材開発プロジェクト」を立ち上げ、定期的にグループ各社が採用状況について情報交換を行い、各社のノウハウを共

有する体制を整えました。グループ会社の強みを活かしながら、人材課題に取り組んでまいります。

今期は、企業文化醸成の観点から数年ぶりに新卒採用を再開しました。新卒採用者がしっかりと組織文化を継承し、その土壌で中途採用者が自らの経験やスキルを最大限に活かすことができるハイブリッドな人材戦略で、さらに強固な組織作りを進めてまいります。

グループ全体としては、2030年まで現体制で事業を進めてまいります。引き続き、各社が「変化と成長」を続けることで、グループ全体の成長を継続していく所存です。

新入社員Q&A 新入社員が赤澤社長に聞きました！

坂口：なぜ、グループ名を「グッドホールディングス」にしたのですか。

赤澤：2015年に「五方よし」という経営理念を創りました。以前から「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」という「三方よし」の精神は当社に根付いていましたが、そこに働く人の幸せ・成長を応援する「手代よし」、より良い価値を次世代に継承する「孫子よし」を加えた「五方よし」としました。その後、2016年にホールディングス体制にするにあたって社名をみんなで考えたのですが、「五方よし」の「よし」を取って「グッドな会社にしていこう」という思いで決定しました。経営理念がそのまま社名になったのです。

水元：企業のAI導入増えてきていますが、産業廃棄物の選別ロボットなどの導入予定はありますか。

赤澤：AI導入については10年前から検討していて、すでにリヴァックスではAIによる配車を導入しています。しかし、変数の要素が大きすぎて、まだ人でしかできないことも多く、すべてをAIで対応するのは難しい状況です。今後もAIについては積極的に情報収集していきたいと思っています。

西岡：当グループは主にBtoBの事業を行っていますが、BtoC事業についてはどのように考えていますか。

赤澤：当社のBtoC事業としてはリリーフのおかたづけ事業があります。2000年代に遺品整理のニーズが急激に増えましたが、当時は不正請求をする悪質な業者も多い業界でした。相談を受けるうちに、当社がおかたづけをサービスとして育てるミッションがあると感じ、事業化に踏み切りました。今後も、BtoB・BtoCにかかわらず問題意識を持って社会ニーズを見極めていきたいですね。

坂口：入社の時に社長がおっしゃった「仕事を人生と同じレベルで楽しもう」という言葉は、かなり自分の胸に刺さりました。

赤澤：「ウェルビーイング」ですね。「ウェルビーイング」とは、「心身だけでなく、社会的な面も含め満たされた状態」をいいます。若い人は、スキルや経験といった人的資本や金融資本は少ないけれど、友だちや仲間など社会資本はすごくある。そして、社会人として成長していくと、人的資本や金融資本もどんどん増えてきます。これからの長い仕事人生を豊かに楽しんでほしいと思っています。



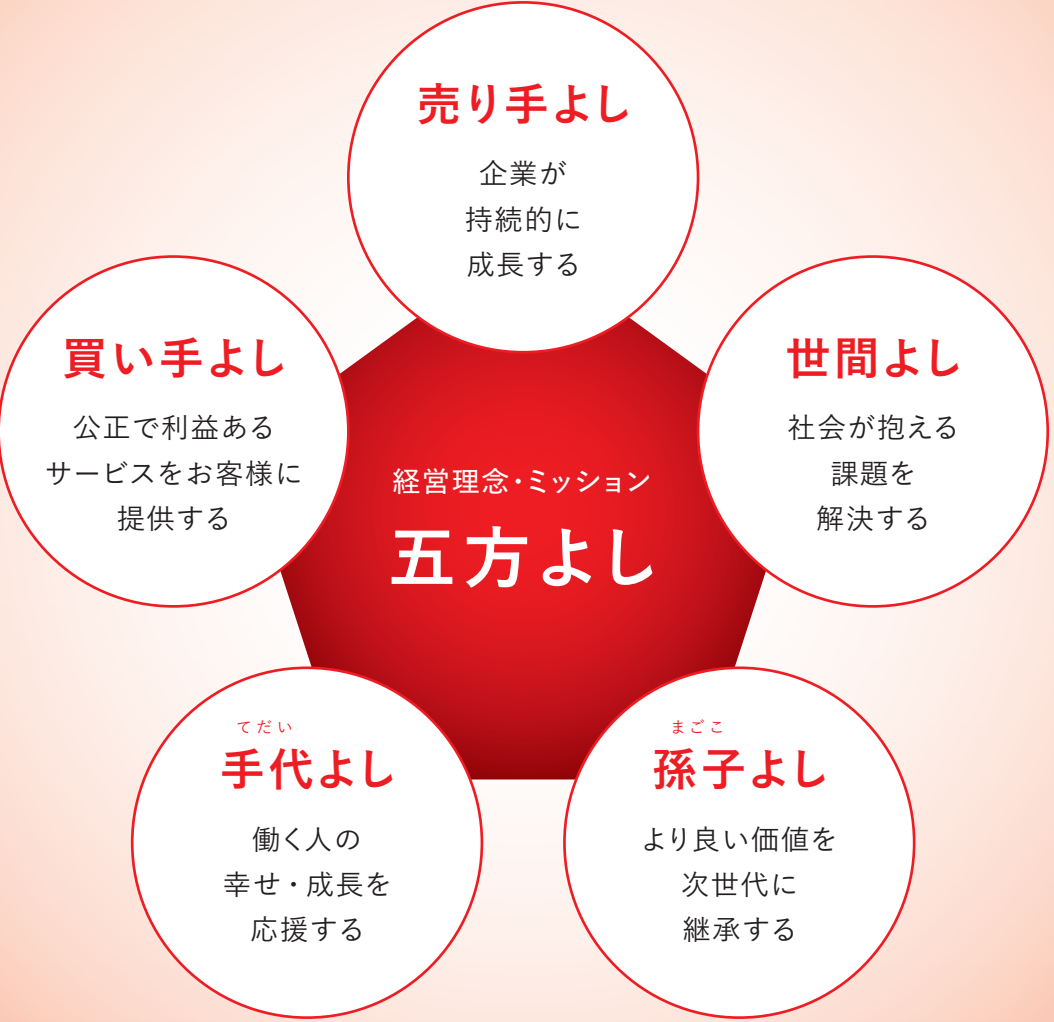
経営理念

「五方よし」の経営理念のもと
環境ビジネスを通して
未来の明るい社会を創ることをめざします

私たちが掲げる経営理念「五方よし」は、近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代よし」、未来の担い手である次世代への責任と持続可能な社会の構築に取り組む「孫子よし」を加えたものです。

地域の方々や取引先、行政機関、社員やその家族といったさまざまなステークホルダーとの関係を大切にしながら、常に時代の先を見据えて未来に向かって進化する。「いま、社会にとって何が大切なのか」「未来の社会のためにどのような事業を行うべきか」を常に意識し、社会課題に応えていくことが私たちの使命です。

グッドホールディングスグループの価値創造



行動指針

私たちの「行動指針」は、
進化し続ける姿勢を
育んでいます

私たちが展開する環境ビジネスは社会の基盤を形成する重要なもの。地域社会との信頼関係を第一に、すべての従業員が凡事徹底を基本に確かな責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。だからこそ、その時代が必要としている新たなサービスを創り出すことが可能なのです。

1 責任とプライドを持って
仕事に取り組む

お客様から報酬をいただいている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果（成果）を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2 自主性と協調性の
バランスをとる

「今、自分が何をすべきか自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい（面白い）」という姿勢で取り組む

4 どんな状況にも適応する
（適者生存≠弱肉強食）

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、習慣に囚われず、様々ないは困難な状況でも適応する努力を続ける

5 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人々の期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

SDGsへの取り組み

私たちにとって
「事業を継続すること」が
SDGsへの貢献と考えます

環境ビジネスに携わる私たちが見つめているのは社会の未来です。SDGs（持続可能な開発目標）をさらに明るく確かな未来をもたらすための過程と捉え、コーポレート・ガバナンス、人権・労働慣行、コミュニケーションの分野においてSDGsを踏まえた取り組みを行っています。



グッドホールディングスグループの取り組み

コーポレート・ガバナンス

- 組織統治
- 法令順守
- 情報開示・説明責任



環境における取り組み

- マテリアルバランス
- 活動の目標と実績
- 環境負荷低減の取り組み
- 環境パフォーマンスデータ



従業員とともに

- 活動の目標と実績
- 労働安全衛生の取り組み
- 人事に関する取り組み
- 安心して働ける環境づくり



地域社会とともに

- 活動の目標と実績
- お客様とのコミュニケーション
- 消費者課題の取り組み
- 苦情・事故



社会課題を捉え、
応える力で、
未来の社会に貢献します

私たちは、常にその時代の社会課題に向き合い、解決に尽力することで事業を展開させてきました。

1960年に家庭ごみ収集事業からスタートした事業は、1970年代の産業廃棄物の社会問題化を受けて産業廃棄物処理事業に展開。2000年代には人材不足、高齢化社会、食品ロスといった社会課題に取り組み、事業化を実現させてきました。

そして、2023年1月にはバイオガス発電プラントが竣工し、食品リサイクル事業が再生可能エネルギー事業へと展開を遂げました。

私たちは「社会とともにある企業」として、これからも社会課題を捉え、応える力で未来の社会に貢献します。



GOOD HOLDINGS

グッドホールディングス株式会社

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
設立：1960年 資本金：96百万円
従業員数：9名

事業内容

グループ財務・経理・人事・労務・広報、
経営支援および総合戦略の策定

連結売上高 5,211百万円 ※1

※1 単位未満切り捨て（特に断りのない場合、以降も同様）

グループ従業員数 358名 ※2

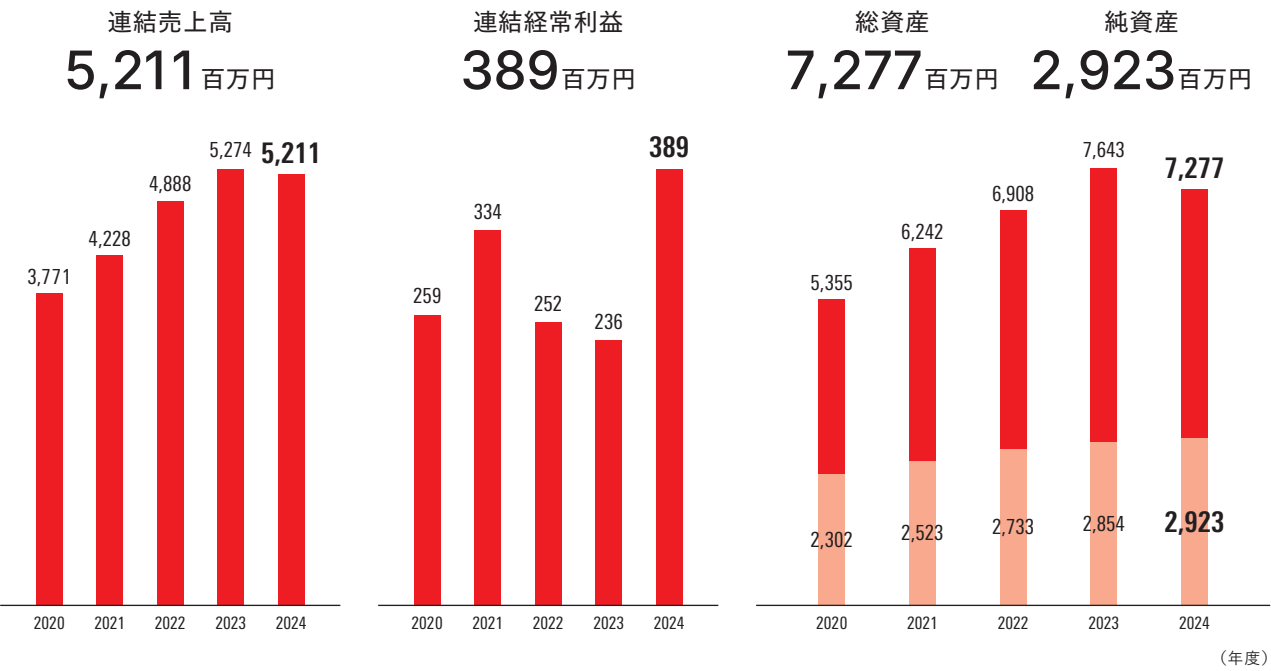
※2 従業員数は常用雇用者（社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く）の数

株式会社 リヴァックス 産業廃棄物の収集運搬・中間処理 食品リサイクル・バイオガス発電	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 畑井 浩希 資本金：81百万円 従業員数：56名 売上高：2,083百万円	事業内容 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬 産業廃棄物の中間処理（破碎・乾燥・メタン発酵） 食品リサイクル・バイオガス発電
株式会社 swell 排水処理施設などのプラント設備清掃 産業廃棄物の収集運搬	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 稲富 啓介 資本金：10百万円 従業員数：17名	事業内容 排水処理施設などの堆積物の回収、汚水の洗浄 設備内に堆積したダストの回収 産業廃棄物の収集運搬
株式会社 リリーフ おかたづけサービス リユースサービス	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 知宣 資本金：50百万円 従業員数：54名 売上高：758百万円	事業内容 おかたづけサービス （遺品整理、生前整理、残置物撤去） リユースサービス
株式会社 ダイキョウクリーン グリストラップ清掃	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 津田 政房 資本金：80百万円 従業員数：51名 売上高：649百万円	事業内容 グリストラップや排水管を含む 水回りの衛生維持管理サービス
株式会社 大栄衛生 西宮市のごみ収集事業	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一 資本金：10百万円 従業員数：79名 売上高：957百万円	事業内容 一般廃棄物の収集運搬（西宮市） 産業廃棄物の収集運搬
株式会社 大協 伊丹市のごみ収集事業 人材派遣事業	所在地：兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号 代表者名：代表取締役社長 平井 里美 資本金：10百万円 従業員数：92名 売上高：773百万円	事業内容 一般廃棄物の収集運搬（伊丹市） 産業廃棄物の収集運搬 人材派遣・人材紹介

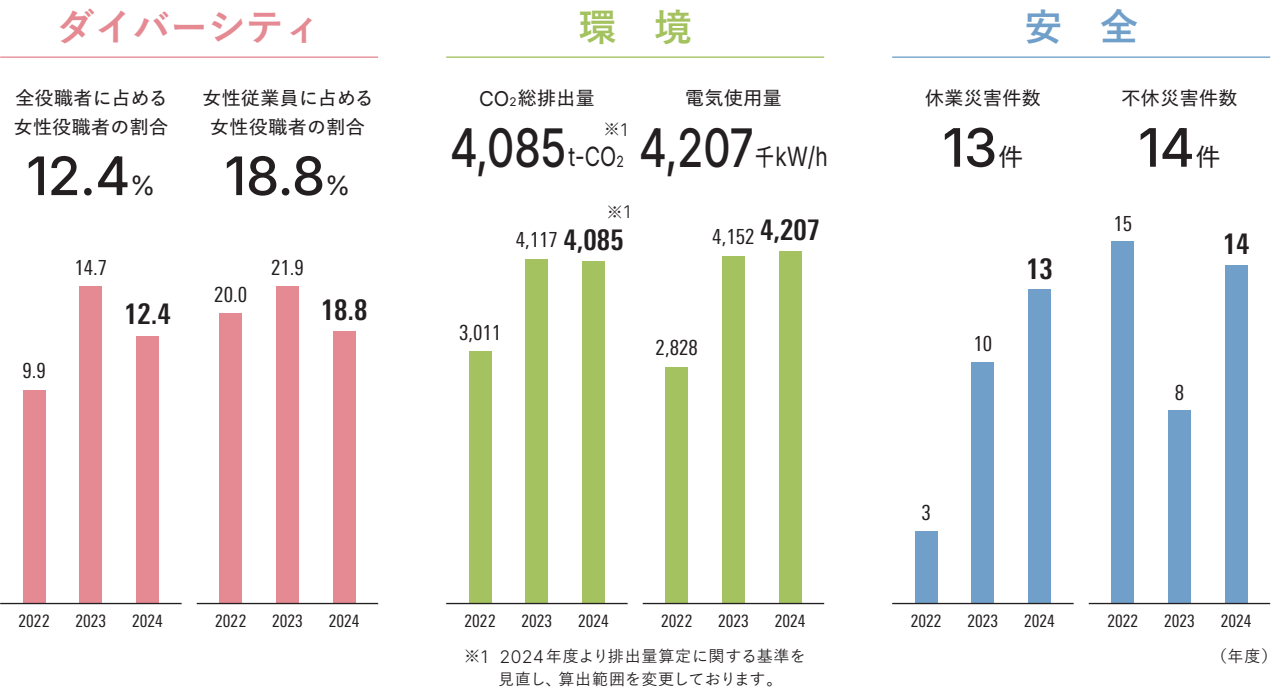
※すべて100％子会社 ※2025年3月31日時点（一部2025年度の内容を含む）

グッドホールディングスグループの歩み	社会の変遷
1950 1953 創業者が廃棄物回収業を創業 1968 有限会社大栄衛生を設立 1974 大栄サービス株式会社を設立（リヴァックス） 1976 有限会社大協工業所を設立	1960年代 高度成長期 1970 「廃棄物処理法」改正により、一般廃棄物と産業廃棄物という概念が誕生
1980 1984 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置（リヴァックス） 1999 同業他社との協調体制（アライアンス事業）構築（リヴァックス）	1980年代 バブル経済 1985頃～ 家庭ごみの排出量が急増し始める 1990 バブル崩壊 1995 「容器包装リサイクル法」制定 1997 「京都議定書」地球温暖化の原因となるCO₂などの削減率が定められる
2000 2002 CSR報告書（現サステナビリティレポート）発行スタート 2006 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル（リヴァックス） 大協工業所を株式会社に改組および大協に商号変更 計量器付き収集車両の導入（大栄衛生・大協） 2007 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成（リヴァックス） 同時にバイオマス燃料化事業を開始 2008 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバースマネジメントセンターを新設（リヴァックス） 甲山農地プロジェクト（現こども農業塾）を開始 JICA研修の受入れを開始 関西大学第一中学校の施設見学受入れを開始（リヴァックス） 2009 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更	2000 一人当たりの家庭ごみ（一般廃棄物）排出量が減少し始める あらゆる廃棄物においてリデュース、リユース、リサイクルを 主軸とした時代へ 2001 「廃棄物処理法」改正により、廃棄物処理のマニフェスト制度がさらに強化 コンプライアンスの遵守が重要視される時代へ 2007 「改正容器包装リサイクル法」完全施行により、さらに社会の「ごみの減量化」への意識が高まる
2010 2010 グリストラップ清掃事業を開始（ダイキョウクリーン） 2011 おかたづけサービス事業を開始（リリーフ） 2013 海外リユース事業を開始（リリーフ） 2014 関東事業所を東京都足立区に開設（リリーフ） swell事業を開始（リヴァックス） バイオマスボイラーを新設（リヴァックス） 2015 チャイルドドリームへの寄付を開始 埼玉県三郷市に関東事業所を開設（リリーフ・ダイキョウクリーン） 2016 ホールディングス体制へ移行 五方よしの経営理念策定 リヴァックスホールディングスの社名をグッドホールディングスに変更 2017 グループとして東京都千代田区に東京オフィスを開設 さくらチーム発足（大栄衛生） 人材派遣・人材紹介事業（G career）を開始（大協） 2018 人事制度見直し	2010 「カンクン合意」にて、日本の温室効果ガス削減目標を「2020年度までに2005年度比で排出量を3.8％削減」とする 孤独死者数が急増し、社会問題化 2015 「パリ協定」にて、日本の2030年度の温室効果ガスの排出を2013年度の水準から26％削減することを目標とする SDGs（持続可能な開発目標）が策定される
2020 2020 フードバンクへの寄付を開始（リヴァックス） 2022 神奈川県横浜市内に京浜事業所を開設（ダイキョウクリーン） 2023 西宮バイオガス発電プラントが完成（リヴァックス） 2024 武庫川女子大学と包括連携協定を締結 2025 神奈川県川崎市に京浜支所を開設（リリーフ）	2020 菅総理所信表明演説で「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言 2021 気候サミットにて日本の2030年度の温室効果ガス削減目標を「2013年度から46％削減」と宣言

財務情報



非財務情報



グッドホールディングスグループ
2024年度 トピックス

ひょうごバイオマスecoモデルに登録

リヴァックスは、2024年7月に「食品廃棄物を利用したメタン発酵によるバイオガス発電」の取り組みについて、ひょうごバイオマスecoモデルとして登録いただきました。



西宮環境サポート協同組合
50周年記念誌を発行しました

大栄衛生および大協含め、一般廃棄物処理業の許可を有する6社の事業者が加盟する「西宮環境サポート協同組合」が、1974年の設立から50周年を迎えた節目に記念誌を制作しました。2020年からのコロナ禍における奮闘の様子や、「若手トップが描く、西宮市の環境と未来」を特集しております。



ウェブアクセシビリティツール
「ユニウェブ」を導入

リリーフは、多様なユーザーにとって使いやすいサービスをめざし、自社サービスサイトにウェブアクセシビリティツール「ユニウェブ」を導入しました。

安心して働ける職場環境づくりに
取り組んでいます

当グループの従業員とその家族を含め、働くすべての人が安心して働ける職場環境づくりの一環として「健康づくりチャレンジ企業」および「わが社の健康宣言」の事業登録認定を取得いたしました。



セーリングチーム 関西実業団8連覇を達成

2024年7月に開催された「関西実業団ヨット選手権」で、2位チームと40点以上の差をつけ8連覇を達成し、同年9月に滋賀県で開催された全日本実業団ヨット選手権に出場いたしました。



ひょうご産業SDGs認証企業
(アドバンスステージ) に認定

リリーフは、2024年8月に兵庫県が推進する「ひょうご産業SDGs推進宣言企業」に登録されました。

兵庫県の「居住支援法人」に指定

リリーフは、2024年10月に兵庫県の居住支援法人に指定され、高齢者をはじめとする要配慮者への生活支援や情報提供に関するサポート体制をさらに強化することが可能になりました。

こども農業塾 オプション回を実施しました

2024年12月に例年好評いただいている「しめ縄づくり」を従来の農業塾プログラムから切り離し、オプション企画として実施いたしました。

しめ縄づくりに加えて、小学校の改修工事現場の見学も行い、大人も子どもも楽しんで参加いただきました。



2025年4月、株式会社swell 始動。

2025年4月、株式会社リヴァックスのswell事業部が分社化し、株式会社swellとして新たなスタートを切りました。

事業スタートから分社化までの10年のストーリーとこれからの未来について、稲富啓介社長に聞きました。

稲富啓介

Profile

株式会社swell代表取締役社長。
2002年、株式会社リヴァックスに新卒入社。
2014年 swell事業開始。
2025年4月より現職。

— 10年前に株式会社リヴァックスでswell事業がスタートしたのは、どのような背景があったのでしょうか。

株式会社リヴァックスは、再利用や単純リサイクルができない難処理廃棄物に強いプラントや施設を持つ会社です。クライアントの産業廃棄物処理に携わる中で、水回り設備のトラブルが起こった際に対応するのは、吸引車を持っている廃棄物処理業者かプラント工事の専門会社かどちらかでした。プラント工事の専門会社は数が少なく、適切な作業ができる廃棄物処理業者も少なかったため、清掃、廃棄物処理、設備工事といった工場内設備保全がトータルにできることに事業としての価値があると考え、リヴァックスの2本目の事業柱として取り組みが始まりました。

サービスを展開していくにあたり、「何か目玉になるような飛び抜けた道具がほしい」と導入したのが、日本で一番強い吸引力を持った超強力吸引車です。

— 「超強力吸引車」は、最初は「何に使おうか?」というところからのスタートだったと聞きました。

そうなんです。ひとつ飛び抜けた道具であるがゆえに、当初はどこにニーズがあるのか誰もイメージがつかず、車を作ったメーカーさえも「どこでどうやって使うの?」と聞いてくるほどでした。幸いにして、当時の業務と現場の部門責任者が新しいもの好きで、「どこでどんな時に使えるか」「どういう切り口で売り込めるだろう」と、手探りながらもワクワクして考えていました。リヴァックスのリバースマネジメントセンターで水1トン吸うのに何秒かかるのか実験したり、砲丸ボールを地下ビットから吸わせたりしたのも、今思い返すと良い思い出です。

— ニーズはすぐに見えてきたのでしょうか。

超強力吸引車は、長距離の吸引や重いものの吸引に力を発揮します。性能を理解するほどに顧客となるターゲットも見えてきてはいたのですが、それ以前の問題に直面することになりました。今でこそSDGsが浸透していますが、15年前はどこに会社も設備清掃やメンテナンスにはお金をかけず、「設備がきれいになる」と営業しても、お金を出してまではやらないということがほとんどだったのです。「きれいになる」以外の価値をどう打ち出すが営業の課題となりました。

「顧客にとっての価値」を考えた末に行きついたのが、「コストの削減と短工期」です。超強力吸引車を使

えば5日かかる作業が3日で終わる。そうすれば従来よりも2日多く設備を動かせます。短工期を打ち出したことは、「できる限り設備を止めずに工場を稼働させたい」という工場のニーズにピタッとハマりました。「高くても短工期が売れる」ということに気付いたのです。そこが突破口となり、「超強力吸引車、粉体マルチ吸引車といった特殊車両を使った高度な作業レベル」に加えて「それまで実現できなかった短納期」を提案することで、仕事を増やしていきました。

— 事業の成長において、大きな転機となった出来事がありましたか。

転機となったのは、2017年の大手製鉄会社からの受注です。超強力吸引車のサービスを売り込んでいた中で、大きな工事が発生したのです。工場で設備のトラブルに見直しをかけるために、まずは清掃、設備の工事を行うことになりました。3か月ほどの長期の契約でしたが、その後も定常的な仕事となり、鹿島出張所をつくるきっかけとなりました。

— リヴァックスから分社化したことについて、どう感じておられますか。

swell事業が、事業開始から10年目の節目で法人化できたのはよかったと思っています。ここがゴールではなく、むしろやっとスタートラインに立てたような気持ちです。株式会社リヴァックスは、バイオガス発電プラントを稼働から2年で事業として軌道に乗せました。リヴァックスはこれから有機性廃棄物処理のプロフェッショナルとして、swellは工場内設備保全のプロフェッショナルとして、それぞれの道を歩んでいくことになると思います。

— 株式会社swellの今後の展望は?

全国展開はもちろん、海外進出も描いています。海外については、すでに情報収集している状況です。海外進出している日本企業のニーズに応えることはもちろん、環境に対する意識の高い国の企業や施設はターゲットになってくると思います。調査によると、世界で吸引車の市場は伸びており、吸引車が求められるシーンも増えています。日本人の仕事の緻密さ、丁寧さはすでにブランド化していますし、SDGsといった時代の追い風を考えると、海外企業のニーズにも十分応えられるのではないのでしょうか。視野を広く持って、社員みんなで楽しくチャレンジを続けていきたいと思っています。

新たな挑戦へ 初期メンバーが語る分社化の舞台裏と未来の展望



村田 健次郎

2016年入社

特殊車両を使った設備清掃の提案営業。2016年に入社し、当時係長の稲富社長と2人で営業を行っていた。



山下 大地

2019年入社

大型ドライバーで業務部の主任。作業を率いるリーダーとして現場では仕事の指揮をとる。



伊東 健寛

2018年入社

日本に数台しかない超強力吸引車に憧れてオペレーターとして入社。現在は、鹿島事業所の管理職。



ようやくスタートライン。

苦労を超える楽しさとともに駆け抜けた10年

— 長年育ててきた事業が会社という形になり、みなさんはどのように感じていますか？

村田：今でこそ20人という大所帯になりましたが、私が入社して4、5年目ぐらいまでは社長と2人で営業をしていました。社長も当時は係長で、あつという間にここまで来た感覚です。道のりは本当に大変でしたが、ようやくスタートラインに立ったなという気持ちですね。

私たちの最大の強みは特殊車両ですが、だからこそその扱いにくさもありました。業務部の山下主任や鹿島事業所の伊東所長は、その点で大変苦労されたのでは。

山下：そうですね。私はドライバー経験者として入社しましたが、作業経験はまったくなかったので、車両操作を覚えて実際に動かすことに苦労しました。また、3、4社の協力会社とチームで作業を進める中で、当社のドライバーはリーダーとして安全面を監督する役割も担います。私は人前で話すことが苦手だったので大変でしたが、現場の経験を通じて指揮をとれるようになり、自分自身の成長を感じています。

伊東：鹿島も特殊なトラックに惹かれて入社するドライバーが多く、作業経験のあるドライバーはひとりもいませんでした。そのためドライバーは現場で一から機械の操作を覚え、毎日真っ黒になって帰っていました。私も最初は子どもに「パパは泥遊びでお金もらっていいな」と言われて

いたほどです。洗濯機が泥汚れて壊れるのも“あるある”でしたね。今振り返れば笑い話で、それもまた現場の楽しさでした。

— 仕事のやりがいや楽しさはどんなところにありますか。

村田：正直、社長についていくのに必死です。社長は見ている先が無尽大で、「この人、何言ってるの?」と何度思ったことか。でも、そう思いながらも必死でついていくと、関東に事務所を出したり、事業を全国に広げたりと、いつの間にかすべて実現しているんです。だからこそ、大変だけれど日々の楽しさの方が勝っているような状況ですね。

伊東：社長は「近々海外に行く」と常々言っているので、楽しいのは新しいことにどれだけチャレンジしていくかという、そのスピード感にあると思います。

山下：全国でも数台しかない車両を扱っている、ということも大きなモチベーションです。走っていると道行く人が振り返ったり、子どもが指をさして喜んでくれたりすることもあります。運転だけでなく作業も伴い、危険と隣り合わせの仕事ですが、大変な現場をやり終えた時の達成感は格別で、それが私たちの仕事の楽しさにもつながっていると思います。

伊東：そうですね、車両は私たちの顔でもあります。そして、その車両を動かす「人」も重要です。熱中症対策など、日々新しい安全対策を導入し、安全ミーティングでは事故やヒヤリハットを共有し、事故防止に努めています。

村田：汚れた水が少しずつきれいになっていくことをイメージした、車両のグラデーションのデザインもいいですね。

「株式会社swell」の分社化を初期から支えてきたメンバーが、分社までの道のり、そして未来への熱い思いを稲富社長と語り合いました。

— 導入されている営業支援ツール「チャットボット」についても教えてください。

村田：「チャットボット」は、営業職の知識習得を助けるアプリで、これまで営業がつまづいた情報や蓄積した経験を読み込ませて、知識の補填をするというものです。専門用語なども随時アップデートしています。swellの営業は、知識量がないとできない仕事です。そして知識は、自分がどれだけ動くか、どれだけ現場を見るかにかかっています。私も十分な知識をつけるのに4、5年かかりました。新しく入社した人に、これまで私たちが蓄積した知識や経験した事例を共有して、成長を早めてあげたいという思いで作りました。

稲富：今後もAIの導入は進めていきたいと思っています。業務部は、まだ体で覚えることが多くAIでというわけにはいかないのですが、最終的には人が行うのは操作だけにして現場には入らないのが一番安全です。いつかそれを実現できたらと思います。3年後、5年後に「やっぱりそうだった!」と言わせたいですね。

全国、そして海外へ。

ここから始まる、未来への展望

— みなさんが考える、将来のビジョンについて教えてください。

稲富：関西と関東を2拠点とした全国展開はすでに動き出

しています。海外も、情報収集はすでに始めていて、数年内に展開したいと思っています。

伊東：海外については、私はまだ具体的にイメージできていませんが、社員の中では「自分が行くならどこがいいな」と、話はしています。

村田：取引先の施設がある国なら、話が早いかもしれません。まずは、海外の会社がどういう設備を持っているかを見てみたいですね。ドイツでは、作業は人の手では行われず、すべて機械だそうです。

山下：私も日本のやり方しかまだ知らないのですが、海外のやり方も知りたいです。

伊東：鹿島では、協力会社とのパートナーシップを活かしつつ、今後は社員をもっと増やして、より一層組織全体の力を上げていきたいです。

稲富：そうですね。組織的には、現在、社員は20名ですが、2030年には50名体制をめざしています。そうすると、ここにいるメンバーはたくさん部下を持って、会社を率いる立場になっているでしょう。

村田：常に前倒しで物事を進める会社なので、もしかしたら2030年を待たずに50名体制になっているかもしれませんね。

稲富：現在、競合する同業他社はない状況ですが、今後、当社のように日本で一番強い吸引力を持つ車を買う会社がでてくるかもしれません。先行者として、同じ車を持つライバルが出てきたときに負けることのないクオリティを磨いておかねばならない。そういう感覚は常に持ちながら、これからもスピードを緩めることなく挑戦を続けていきたいと思います。

会社概要

資本金：81百万円
従業員：56名

代表取締役社長
畑井 浩希

株式会社リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理

食品リサイクル・バイオガス発電

設立50周年。創意工夫と技術力で、循環型社会の実現へ

株式会社リヴァックスは、「産業廃棄物のリサイクルを構築すること」で資源循環化をめざしています。ごみの削減は社会的な課題であり、私たちの使命です。私たちは、リサイクルが難しい難処理廃棄物においても創意工夫と技術力で諦めることなく挑戦し、社会に資源として還元したいと考えています。また、法令遵守と透明性を重視した経営を通じて、ステークホルダーの方々の信頼に応え、より質の高いリサイクルフローを時代に先駆けて創出することを使命として事業を行っております。

今期の方針

当社は、2023年に食品廃棄物等の有機性廃棄物を原料とするバイオガス発電をスタートし、再生エネルギー分野に事業を拡大しました。今後はバイオガス発電施設を中心とした食品リサイクルを中心に据え、事業を展開してまいります。例えば、発電量を最大化させる取り組みや、発電した後の残さの有効活用などが事業開発のテーマになっていくでしょう。

また、この度、乾燥処理プラントをリニューアルし、安定した処理ができる基盤が整いました。乾燥処理は大量の廃棄物をスピーディーに処理できるプラントとして、バイオガス発電を補うことが可能です。バイオガス発電と乾燥処理の2つをパッケージとして、より多くの廃棄物の処理を行う「リヴァックスモデル」を確立していきたいと考えています。創意工夫で廃棄物の可能性を追求し、循環型社会の構築をめざします。

リヴァックスの事業

産業廃棄物の総合リサイクル事業

「有機性廃棄物のバイオマス資源化事業」「食品リサイクル事業」「アライアンスネットワーク事業」「バイオガス発電事業」の4つの事業で、あらゆる産業廃棄物のリサイクルと資源循環化に取り組んでおります。

有機性廃棄物のバイオマス資源化事業

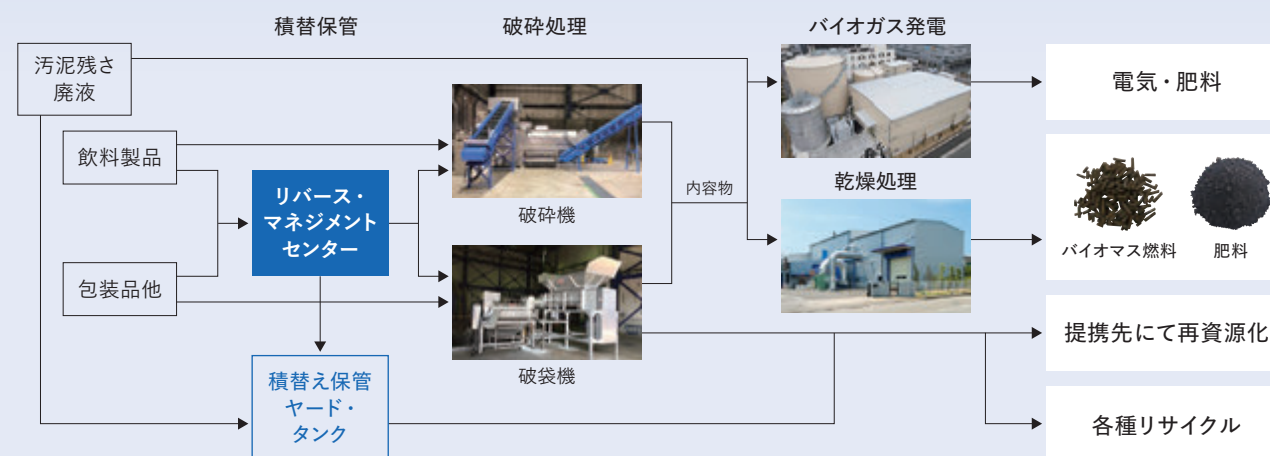
事業所から排出される活性汚泥や動植物性残さの有機性廃棄物については、自社プラントで乾燥処理を行い、バイオマス燃料や肥料といったバイオマス資源へと100%リサイクルを実現しています。



二酸化炭素排出を大幅削減するバイオマスボイラー

当社の「バイオマスボイラー」は、建築廃材を燃料としています。リサイクル施設を従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換しました。また、廃棄物の貯留ピットと各処理工程から発生する高濃度臭気を、ボイラーの燃料用空気として利用し脱臭します。当社では、2016年度にこのバイオマスボイラーを導入したことで、年間二酸化炭素排出量を62%削減することができました。

リヴァックスのリサイクルシステム



リサイクルの保管・前処理施設 RMC (リバース・マネジメントセンター)

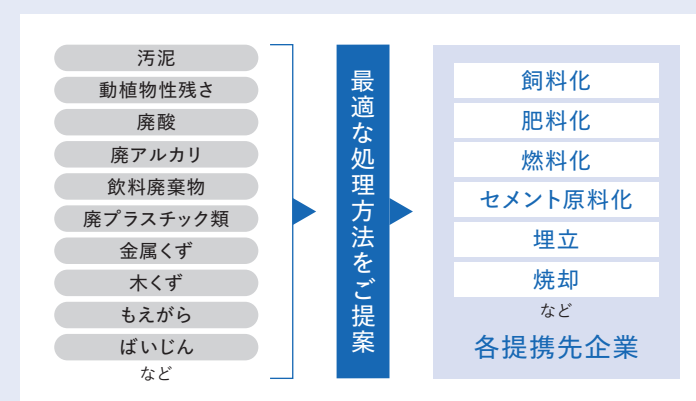
RMCの保管面積は195㎡、保管容量は585㎡。2ℓペットボトルにして約30万本を保管できるスペースにより、大量の商品回収に迅速に対応します。また、廃棄飲料を一拠点へ集約することにより、リサイクルのための前処理を効率的に実施します。

食品リサイクル事業

期限切れや製造ロスによって生じた飲料製品や梱包された食品系産業廃棄物を、破砕処理と乾燥処理によりバイオマス資源へとリサイクルします。飲料系廃棄商品は、容器と内容液の100%リサイクルを実現しています。

アライアンスネットワーク事業

産業廃棄物は業者によって扱う廃棄物が異なりますが、当社では長年培ってきたノウハウと提携業者などのネットワークを担って、薬品、廃材などあらゆる廃棄物の処理・リサイクルのニーズにワンストップで対応しております。



TOPIC

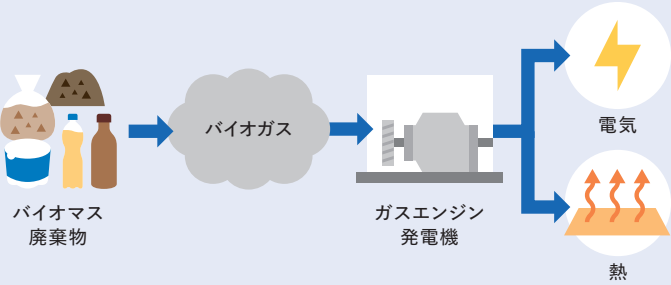
ISO45001を取得しています

リヴァックスは、ISO45001を取得し、運用しています。ISO45001とは、労働安全衛生マネジメントシステムに関する国際規格です。この規格は、組織が労働における負傷や疾病のリスクを管理し、安全で健康的な職場環境を継続的に改善するための枠組みを提供します。



バイオガス発電事業

京阪神エリアで最大級の「西宮バイオガス発電プラント」では、産業廃棄物である排水処理汚泥や食品残さを原料にバイオガス発電を行い、発電した電気はFITを利用して売電しています。食品工場から排出される食品廃棄物は、そのほとんどが飼料化や堆肥化によって再利用されています。しかし近年では、CO₂削減や再生可能エネルギー利用としての需要増加等の観点から、食品廃棄物のバイオガス化がさらに注目されています。



西宮バイオガス発電プラント 2024年度発電量実績	
発電量	発電電力量 一般家庭
2995.83 MWh	832 世帯分 (1世帯300kWh/月として)

TOPIC

ひょうごバイオマスecoモデルに登録されました

リヴァックスの「食品廃棄物を利用したメタン発酵によるバイオガス発電」の取り組みが「ひょうごバイオマスecoモデル」として登録されました。これからも、産業廃棄物のリサイクルを通じて、バイオマス資源の活用と低炭素社会への貢献ができるような取り組みを進めてまいります。



STAFF INTERVIEW



微生物に魅せられて

城戸 祐 処理センター（メタン） 2022年10月入社

前職は公務員で環境系の技術職に携わっていました。転職を考えたときに、大学院時代に微生物の研究に打ち込んでいたことを思い出しました。「そんな仕事ないよな」と調べていたら、メタンガスプラントの立ち上げメンバー募集の広告を見つけて驚きました。現在の仕事は、現場の点検やメタン濃度の測定・分析など。測定した数字からメタン菌がどうしているのかが少しずつわかってくるのがおもしろいです。今後も、目に見えない微生物の活動を見守っていきたいです。

経験がものをいう、奥深い仕事

白井 雄人 処理センター（乾燥） 2008年1月入社

乾燥処理は、汚泥など処理するものによって成分が違うので一筋縄ではいきません。含水率15%を狙って乾燥の状態を常に見ながら運転しますが、感覚的なところが大きく、経験がものをいう仕事。16年経験してもまだまだ学ぶことはたくさんあります。今後の目標は、誰にも怪我をさせず、安全に機械を動かし続けること。そして、自分たちの経験を後輩にしっかり引継ぎ、育てていきたいです。



環境負荷低減の取り組み

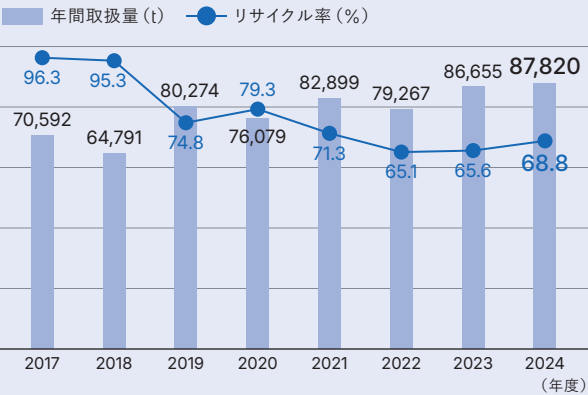
産業廃棄物のリサイクル率

より質の高いリサイクルをめざしています

2024年度のリサイクル率は68.8%でした。
引き続き、お客様のリサイクルニーズへの対応、循環型社会の実現、埋め立て処分地の延命に貢献してまいります。

※リサイクル率は年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表します。
※2018年度まではサマールサイクル（焼却）をリサイクル扱いとしていましたが、2019年度よりリサイクルカウントから除外しています。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



リヴァックスの対応可能な廃棄物処理

メタン発酵 処理施設	処理能力 67.82t/日	対応品目※1 5種 ・汚泥 ・廃油 ・廃酸 ・廃アルカリ ・動物性残さ
乾燥処理 施設	処理能力 90.9m³/日	対応品目※1 5種 ・汚泥 ・廃油 ・廃酸 ・廃アルカリ ・動物性残さ
破碎処理 施設	処理能力 64.8t/日	対応品目 3種 ・廃プラスチック類 ・金属くず ・ガラスくず、コンクリートくず、 陶磁器くず

※1 いずれも有機性のものに限る

悪臭防止対策

各種対策で、
規制値を厳守しています

破碎・積替保管棟には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬出入以外は閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2024年度もすべて規制値内でした。（P20参照）

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、
適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を排水処理施設で処理した後下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然防止に努めています。（P20参照）

廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を
徹底しています

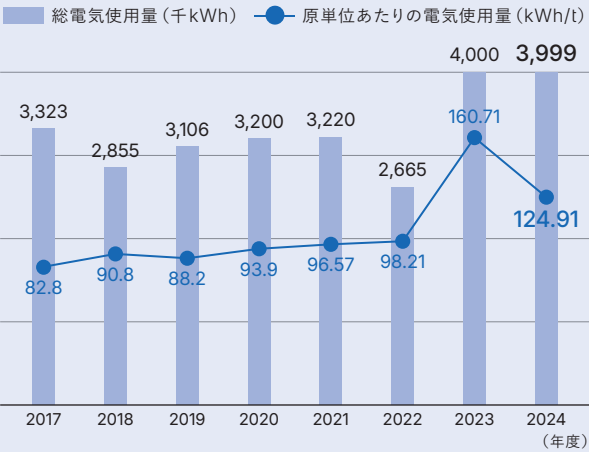
リバースマネジメントセンターでは、容器入り廃棄飲料の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝および8m³の溜め枡を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

処理センターのエネルギー使用量

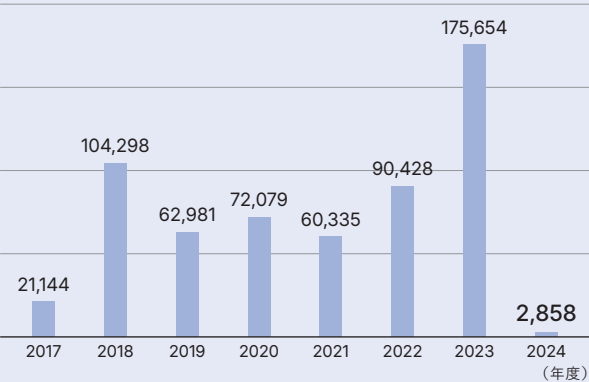
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター（破碎・乾燥・メタン発酵施設）では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。
今後もプラント安定稼働を維持しながらエネルギーの削減に努めてまいります。

処理センターの電気使用量

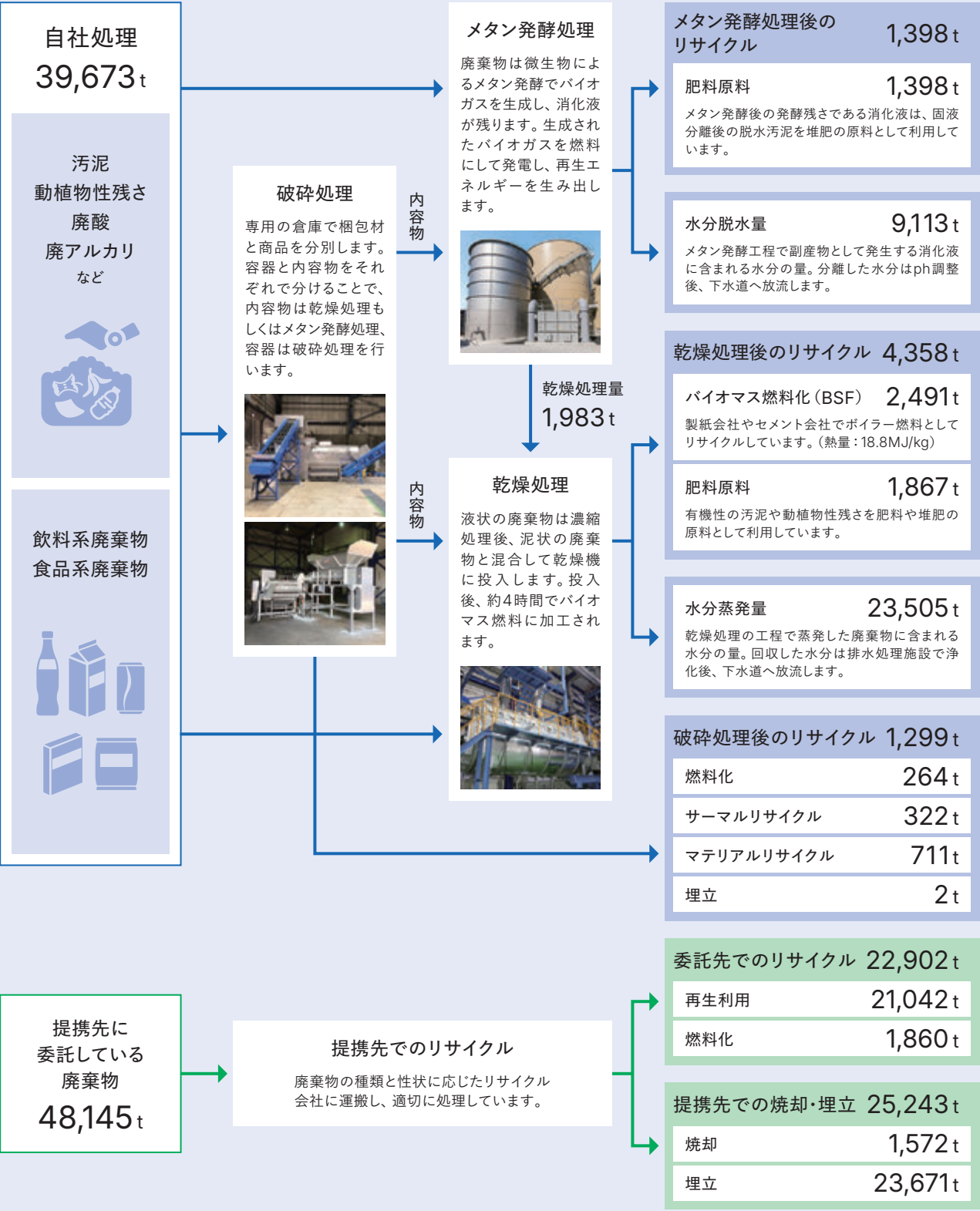


処理センターの都市ガス使用量 (m³)



産業廃棄物処理フロー

2024年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

臭気測定結果			乾燥（2024年10月1日実施）				メタン（2024年10月2日実施）			
悪臭物質名	単位	規制基準	北側	東側	南側	西側	北側	東側	南側	西側
アンモニア	ppm	1	<0.05	0.06	0.16	<0.05	0.22	0.05	0.05	0.1
メチルメルカプタン	ppm	0.002	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	ppm	0.02	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	ppm	0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	ppm	0.009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	ppm	0.005	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	ppm	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレルアルデヒド	ppm	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレルアルデヒド	ppm	0.003	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	ppm	0.9	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	ppm	3	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	ppm	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	ppm	10	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	ppm	0.4	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	ppm	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	ppm	0.03	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	ppm	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	ppm	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度（敷地境界）	—	30	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果		乾燥（2024年10月1日、2025年3月18日実施）			メタン（2024年10月2日、2025年3月24日実施）			
測定項目	単位	規制値	1回目	2回目	規制値	1回目	2回目	
窒素酸化物（NOx）	排出基準	ppm	350	33	90	600	280	380
	時間あたり排出量	㎎/N	0.53	0.14	0.46	－	－	－
	年間排出量	トン	8.5	2.3	4.7	－	－	－
硫化酸化物（SOx）	排出基準	ppm	－	2	1	－	－	－
	K値規制	㎎/N	1回目1.37/2回目1.17	0.0132	0.00764	0.181	0.0016	<0.001
	総量規制	㎎/N	0.381	0.016	0.009	0.137	0.0032	0.0026
ばいじん	排出基準	g/㎎/N	0.2	<0.001	<0.001	0.05	<0.001	<0.001

測定項目	単位	規制基準	乾燥（2024年5月実施）	メタン（2024年7月実施）
水温	℃	45.0未満	基準値内（平均 35.0）	基準値内（平均 32.4）
pH	—	5.0 ～ 9.0未満	基準値内（平均 6.61）	基準値内（平均 7.84）
BOD	mg/ℓ	3,000未満	<5.0	53.6
SS	mg/ℓ	2,000未満	<10	171
カドミウム	mg/ℓ	0.03以下	<0.01	<0.01
シアン	mg/ℓ	0.7以下	<0.01	<0.01
有機リン	mg/ℓ	0.7以下	<0.01	<0.01
鉛	mg/ℓ	0.1以下	<0.01	<0.01
六価クロム	mg/ℓ	0.2以下	<0.02	<0.02
ヒ素	mg/ℓ	0.1以下	<0.01	<0.01
水銀	mg/ℓ	0.005以下	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀	mg/ℓ	検出されないこと	検出されず	検出されず
ポリ塩化ビフェニール	mg/ℓ	0.003以下	<0.0005	<0.0025
トリクロロエチレン	mg/ℓ	0.1以下	<0.003	<0.003
テトラクロロエチレン	mg/ℓ	0.1以下	<0.0005	<0.0005
ジクロロメタン	mg/ℓ	0.2以下	<0.002	<0.002
四塩化炭素	mg/ℓ	0.02以下	<0.0002	<0.0002
1,2ジクロロエタン	mg/ℓ	0.04以下	<0.0004	<0.0004
1,1ジクロロエチレン	mg/ℓ	1以下	<0.002	<0.002
シス1,2ジクロロエチレン	mg/ℓ	0.4以下	<0.004	<0.004
1,1,1トリクロロエタン	mg/ℓ	3以下	<0.0005	<0.0005
1,1,2トリクロロエタン	mg/ℓ	0.06以下	<0.0006	<0.0006
1,3ジクロロプロペン	mg/ℓ	0.02以下	<0.0002	<0.0002
チウラム	mg/ℓ	0.06以下	<0.006	<0.006
シマジン	mg/ℓ	0.03以下	<0.0003	<0.003
チオベンカルブ	mg/ℓ	0.2以下	<0.002	<0.002
ベンゼン	mg/ℓ	0.1以下	<0.001	<0.001
セレン	mg/ℓ	0.1以下	<0.01	<0.01
ハウ素	mg/ℓ	10以下	<0.1	0.1
フッ素	mg/ℓ	8以下	<0.2	<0.2
1,4ジオキサン	mg/ℓ	0.5以下	<0.05	<0.05
ダイオキシン	pg-TEQ/ℓ	10以下	0.00019	0.00071

設備清掃事業

工場内インフラに特化したswell事業

工場の排水処理施設や配管、タンクといった工場内設備に特化した清掃サービスを提供しています。顧客ニーズの中でも「特に技術的に難しく未だ実現されていない課題」に対して高機能な吸引車と洗浄車の技術力で応えすること、そして顧客の現場に合ったより良い清掃サービスを企画提案し、「コスト面、効率面での改善に貢献すること」を強みに事業展開しています。技術力と提案力で、工場の環境インフラの機能維持に貢献します。

超強力吸引車であらゆる清掃を可能に

国内最大級の超強力吸引車など特殊車両を保有しており、その圧倒的な性能で清掃作業時間の短縮や作業内容の改善を実現しています。「深い地下からの吸引」「レンガ屑など大きな塊の吸引」などこれまで不可能であった作業が可能になり、あらゆる現場のニーズにお応えします。

マルチ吸引車で低コスト・短納期を実現

マルチ吸引車は、粉体専用の特殊車両です。これまで複数台で対応していた、粉体の「吸引・圧送」「容器詰め」「粉体輸送」といった3つの作業を車両一台で行うことができる、まさに一台三役の車両です。吸引した粉体は再利用や廃棄も可能で、作業の手間と時間を大きく削減します。



「提案×高いサービス品質×法令遵守」で安心のサポートシステムを構築

1 提案

顧客（製造工場・プラント工場・排水系作業現場）に低コスト・工程短縮などを提案

2 作業

他では困難な作業（高揚程・高比重）を含め、排水処理施設や配管、側溝などの堆積物の清掃を吸引車と高圧洗浄車でサポート（設備の機能回復）

3 アフターサポート

清掃時に回収した産業廃棄物処理を適正に行い、法令に基づいた産業廃棄物管理表（マニフェスト）の返却、次回作業の提案

株式会社swell

排水処理施設などのプラント設備清掃

産業廃棄物の収集運搬

工場の環境インフラ清掃に特化したサービス

今期の方針

swellとは、工場排水処理設備の各種槽や配管やタンク等の清掃を、他社にない高機能な車両により低コスト短工期に作業するサービスです。当社では数多くの経験からのノウハウ、技術を駆使し、現場ごとに最適なソリューションの提供を心がけています。また、社員一人ひとりが高い意識を持ち、常に「安全第一」を念頭に、安全で効率的な作業環境を維持することを徹底し、事故ゼロをめざしています。私たちは、世の中のニーズに応え、社会に貢献できる企業であり続けることをお約束します。

当社の母体となった株式会社リヴァックスは、1974年の設立より産業廃棄物の収集運搬、中間処理を行ってまいりました。その中で「廃棄物処理だけでなく工場の清掃までトータルに依頼したい」というニーズから、2014年より設備清掃に特化したswell事業を開始し、10年の節目に分社いたしました。事業開始から「五方よし」を企業の基本方針として掲げ、ステークホルダーに対し誠実で信頼性の高いサービスを提供することをめざしています。現在、関西と関東（鹿島）の2拠点で事業を行っており、全国のお客様に対応が可能です。これまで培ってきた技術力と提案力で、全国の工場の環境インフラの機能維持に貢献したいと考えています。

swellの事業

swell 6つの特徴

1 作業時間短縮と廃棄物量抑制によりコスト削減が可能

高機能な機材と経験豊富なプロの作業により、車両台数・工数・廃棄物を抑制し、低コストを実現いたします。

2 超強力吸引車使用により短期間での作業が可能

当社の超強力吸引車は、一般的な吸引車と比較し吸引力が3倍以上となります。強力な吸引力を活用した作業で短納期が可能です。

3 「ISO45001」申請中

安全作業に
自信があります

4 提携先が豊富だから

大規模作業にも
対応可能

5 清掃から廃棄物処理まで

ワンストップ
対応

6 調査後はレポートを提出

無料で
配管内調査

STAFF INTERVIEW



会社とともに成長しています

金澤 祐輝 環境整備部 営業係 2018年1月入社

swell事業が立ち上がって2年目のタイミングで入社しました。この7年で分社したり新システムを導入したりと会社が急成長したので、営業事務もついていくのが大変です。常に経験のない仕事而降りかかってきて、しかも営業事務の範疇に収まらない仕事ばかり。「やること」を書いた付箋の数がなくなることはないほど忙しいですが、ひとつひとつ乗り越える楽しさもあります。やるしかありません！

日々、新しい経験の連続です

掛田 彩華 環境整備部 営業係 2023年3月入社

swellの営業事務は、販売促進、総務、採用、システム、マーケティングと、業務の範囲が多岐にわたります。さらに、swellの営業は毎回のように経験のない案件を取ってきてくれるので、その度に新しい経験ができるのが楽しいです。作業報告書の作成は、「誰が見てもわかるように」と心がけて、自分が理解しながら作っています。お客さんに喜んでいただける報告書を作成することで「次につながるかも」と考えて仕事をしています。

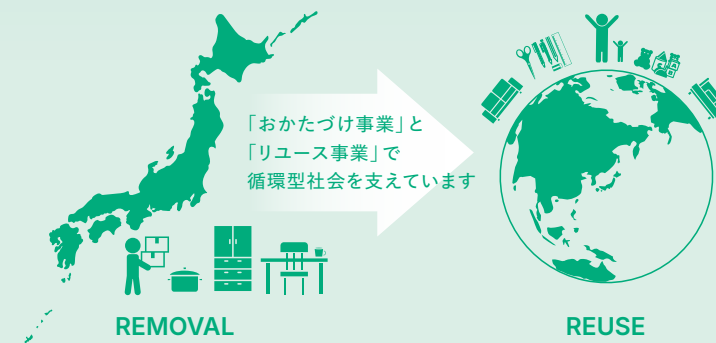


リユース事業

まだ使うことができる不用品を再利用する仕組みとして「おかたづけ事業」と両輪で取り組んでいるのが「リユース事業」です。

アジアでは日本の中古品が「Used in Japan」として人気があります。当社は、自社で倉庫機能、営業機能を持っており、環境変化にもすぐ対応できる体制が強みです。どこでどんなものが求められているのかを把握した上で「不要なものを求められる場所へ」きちんと仕分けし、輸出をしています。

現在、東南アジアを中心に年間160本程度コンテナを届けており、約1,400トン程の廃棄物量削減につながっています。リユース事業の仕組みは循環型社会への貢献となり、私たちの経営理念でもある「五方よし」を体現したビジネスモデルを構築しています。



STAFF INTERVIEW

FCの研修カリキュラムを確立

かがやき賞・部門賞(業務部・FC事業部)・社長賞

河野 元道 おかたづけ事業 関西事業所 2015年4月入社



かがやき賞、部門賞(業務部・FC事業部)、社長賞というまさかの4部門での受賞となり、嬉しく思っています。去年1年はFCの店長研修を考え、実践し、ブラッシュアップを繰り返す日々でした。通常一人前になるのに1年かかるところを3週間の研修で店長としてリリーフブランドを背負えるよう、カリキュラムを考えるのにはとても苦労しました。自分自身のノウハウだけではなく、ほかの社員に同行していろんな人のやり方を自分も身に着けながら研修に落とし込んでいきました。まだ完成形ではありませんが、これまで個々人で積み上げていたノウハウを会社の資産として形にできたと思います。直近の目標は、研修の質を上げていくことと、作業のクオリティが属人化しないようマニュアルを作ることです。

お客様に寄り添うサービスを提供

クチコミ賞

林崎 龍也 おかたづけ事業 関東事業所 2023年8月入社

クチコミ賞は今期の「目に見える目標」として掲げていました。私は、おかたづけを依頼されるお客様が何を考えているか、どういうサービスを求めているのかを常に考えるようにしています。そのために、見積もりの時間を長めに設定してお客様の思いをヒアリングしたり、「全部処分でいいよ」と言われていても、作業中に大切そうなものを見つけたら「本当にいいですか」とお声がけをするなど、お客様とのコミュニケーションを大事にしています。クチコミに「林崎さんに頼んでよかった」と名前入りで書いていただけると本当にうれしいです。今後は、見積もりと現場、両方完璧にわかった上で、関東全体を見ることができるようになりたいです。



株式会社リリーフ

おかたづけサービス

リユースサービス

「おかたづけ」と「リユース」で「不用品をごみにしない」ビジネスを展開

株式会社リリーフは2011年、グループ理念(五方よし)のもと、社員の新しい活躍の場として「社会課題にビジネスで取り組む企業」として創業しました。遺品・生前整理、孤独死・ゴミ屋敷原状回復、不用品撤去などを行う「おかたづけ事業」と、おかたづけ事業での回収および、提携先から引き取った不用品を国内外でリユース・リサイクルを行う「リユース事業」を展開しています。リユースを軸として、当社が片付けを行うことでごみの発生が抑制される仕組みとなっており、この仕組みを高めていくことで循環社会へ貢献します。

今期の方針

2024年度は、新しい分野でのチャレンジを支援する「JOBチャレンジ」や社内賞といった評価制度など、この数年で取り組んできたキャリアアップのための制度の成果が組織基盤強化として実感できた時期でした。今期はさらに新卒採用も重要なテーマとなります。当社では現在、新卒10年目の人材が多く活躍しています。この先10年を見据えて新卒を採用し、未来に向けた体制づくりをスタートさせたいと考えています。

また、2024年度は三郷市の関東事業所、秋葉原の東京オフィスに続き、川崎市に京浜支所を新しく開設しました。フランチャイズも25店に増えており、今年度末までには、30店舗をめざしています。今期は、強固となった組織基盤を土台に、既存事業の生産性を上げるためのDXや関東エリアの事業拡大に取り組むことで、さらなる飛躍をめざします。

リリーフの事業

おかたづけ事業

お客様とコミュニケーションを密にし、様々なオプション作業にも対応できる体制を作ることで、安心してご利用いただけるよう配慮したサービス体制を構築しています。2025年3月末時点では、1年で6,100件超のお家を整理しました。

当社の「おかたづけ」は、単にモノを「処分する」のではなく、専門知識を持つスタッフがごみと資源に分別し、ごみを減らすことで環境負荷の軽減につながります。また、「おかたづけ」で回収した不用品を処分ではなくリユースするということも大きな特徴です。お客様にとっては大事な家財をリユースすることで心の負担が減るだけでなく、処分にかかる金銭的な負担の軽減にもつながっており、リユース比率向上も重要なテーマと捉えています。

TOPIC

「遺品整理マイスター制度」を導入

おかたづけ事業のサービス品質を担保するため、「遺品整理マイスター制度」を導入しました。関連する法律の知識や現場で求められるスキルを体系化した3級から1級までの社内資格です。従業員全員が3級取得をめざし、実務に応じた2級、1級とレベルアップがめざせる仕組みとなっています。

全国にフランチャイズ展開

西宮市をはじめ東京の2拠点を中心に事業を行っており、2025年3月末時点で全国25店舗を展開しています。

法人のお客様との連携も強化

自社にてコールセンターの設置および、法人専用の担当を設置し、提携先様とスムーズな連携が行えるよう体制を整えています。管理体制を整えガバナンス強化に努めることで提携数は延べ500社を超えます。

ダイキョウクリーンの5つの強み

- 大型複合施設の高層階や地下階にも対応**
対応が難しいビルや大型複合施設等にも対応。高圧洗浄車をはじめ、各種バキューム車、ポータブル洗浄機材などを揃え、お客様の要望にきめ細かく応えます。
- 全国規模のチェーン店にもワンストップで対応**
全国にサービスエリアを拡大。関西・関東を拠点にサービス提供地域は計14都道府県。複数店舗を持つ企業や全国展開の大手チェーン店にも窓口ひとつで対応、情報を一元管理し、業務の効率化にも貢献しています。
- 「クレーム件数ゼロ」を追求**
清掃を手がける従業員はすべて社内研修を受けており、清掃器具の搬入から清掃、マニフェスト伝票の発行、搬出にいたるまで、凡事徹底のもと丁寧な仕事を心がけています。
- 法令順守による適正処理の徹底**
清掃時に回収した油や食品残さは産業廃棄物としてすべて適正に処理し、業務完了後にそれを証明するマニフェスト伝票を発行しています。
- 年間作業実績3万件以上**
豊富な実績で積み上げた技術力とノウハウで、あらゆる施設のニーズに対応。グリストラップ清掃はもちろん、大型ショッピングモール、空港、病院などの排水管や貯水槽の清掃、補修などサービスも拡大しています。

株式会社ダイキョウクリーン **グリストラップ清掃**

SDGsの時代に高まる、廃棄物処理のニーズに貢献

当社は業務用厨房に設置されているグリストラップ（油脂分離阻集器）清掃、ビルや施設の排水管、貯水槽など水回りの衛生維持管理サービスを行っています。関西と関東を拠点に、広域でのサービスを提供しており、全国展開のチェーン店にもワンストップで対応できる体制を整えています。近年は、これまでの経験と実績を活かし、ビルや大型施設の環境を総合的に管理するファシリティマネジメントの領域へと進出。地球環境負荷の低減と衛生保全に貢献していきたいと考えています。

今期の方針

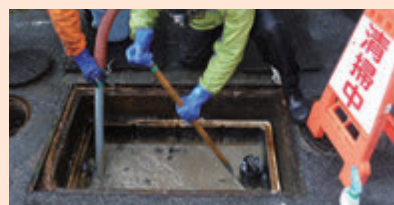
前年度は2024年4月の関東の大型施設の受注を皮切りに、4つの大型施設案件がスタートしたことが売り上げを底上げ、目標の1億円を超える1億3,000万円増となりました。これは、近年の大型施設をターゲットとした新しい営業活動の成果といえます。人材も10人以上増員しました。数年前から現在の状況を予測し、人材採用を計画、必要になる車の台数を見越して発注しておいたことで、現在のニーズにお応えできる体制がとれております。

近年、世の中がSDGsに本気で取り組み始めたことで、企業の廃棄物処理に対する意識はこれまでになく高まっています。このような外部環境を追い風に、今期は関東に注力し、さらなる事業拡大をめざします。この度、関東で28歳の事業部長が誕生しました。さまざまな世代が会社の運営に参加することで、多角的な視点での事業展開を考えています。

ダイキョウクリーンの事業

グリストラップ清掃

グリストラップとは、業務用の厨房から出た污水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集め、グリース（油）が下水に流出するのをトラップする（止める）装置です。グリストラップの汚れを定期的に取り除くことで、悪臭や害虫の発生の防止、衛生環境の改善や水質汚染の防止、排出される汚泥の低減に貢献します。



排水管清掃・詰まり解消

排水管の詰まりは、近隣施設への被害や営業のストップ、損害賠償などさまざまなリスクを引き起こします。専用の高圧洗浄車やポータブル洗浄機を保有し、定期清掃や万が一の際の排水管の清掃にも対応しています。

貯水槽・排水槽清掃

ビル、商業施設の貯水槽や地下、工場等に設置されている各排水槽（雨水槽、湧水槽、雑排水槽）の清掃や汚泥（産業廃棄物）の処理を承っております。有資格者による作業を行い、安全の確認・維持を徹底しています。

施設の衛生管理

ビル、商業設備などのダクト清掃、店内清掃、床洗浄、空調清掃など、施設の衛生管理を総合的にを行っています。大型施設にも対応しており、定期的なメンテナンスで施設の維持に貢献し、効率的な施設経営をご提案します。

複数店舗の情報一元管理

複数店舗の情報を一元管理し集約して本部へご報告します。これにより、各店舗の管理が簡素化されます。

STAFF INTERVIEW

顧客との信頼関係を支える仕事

小野寺 恵梨 関西事業部 管理担当 2016年3月入社



管理部門で売上管理や、入金処理の仕事などを行っています。請求書を出すのは、営業が仕事を受注して現場が作業を行って、初めて成り立つ最終段階の仕事です。それまで信頼関係を構築していても請求書1枚で関係が崩れることもあるため、間違いは許されません。そのため、営業が入手すべき必要情報の整理や口座開設にあたってのルール整備を行いました。現在、管理部は8名に増え、子どもがいるママさんたちも多くいます。今後は、ライフステージに応じて無理なく働ける職場環境づくりに取り組んでいきたいです。

営業と現場をつなぐ調整役

小松 幸大 関東事業部 2017年10月入社

三郷事業所と京浜事業所の2つの支社で配車のスケジュール管理をしています。車の台数、現場のキャパシティ、営業の状況を考慮し、急激に増える業務量に現場が対応できるよう、営業サイドと優先順位を話し合ったり、効率化で現場のキャパを増やしていくのも私の仕事です。一見不可能に思える各業務を可能なスケジュールに整理できた時は、複雑なパズルが解けたような爽快感とやりがいを感じます。今後の目標は、社員個人が無理せず楽しく働き続けてもらえる環境づくりです。そのためには業務の効率化と社員の教育により一層力を入れていきます。





会社概要

資本金：10百万円
従業員：79名

代表取締役社長
赤澤 健一

株式会社大栄衛生 西宮市のごみ収集事業

自らの事業を「市民サービス」と捉え、地域社会に貢献します

株式会社大栄衛生は西宮市で一般廃棄物収集運搬の許可を受けた適正業者として、家庭ごみ・事業ごみの収集運搬や家庭系粗大ごみの回収業務を手がけています。創業以来、顧客と地球環境を第一に考え、環境負荷を低減する処理方法やごみの減量をテーマに事業を展開してきました。私たちは自らの事業を「地域の人々の快適な暮らしを支えるサービス業」と捉え、よりよいサービスの提供をめざすとともに、社会基盤を支え、地域社会に貢献できる企業でありたいと考えています。

今期の方針

前年度は売り上げ目標を達成し、利益を社員に還元することができました。組織においても前年度からの取り組みで管理職を増やし、月2回、「カイゼン会議」を行っています。新しい管理者も生まれ、組織としてのレベルは上がっていると感じています。一方で、事業の成長に社員の増員と育成が間に合わなかったという課題もありました。それを受けて、今年度は改めて人材の採用と育成をテーマにしていきたいと考えています。

事業においては、現場からのニーズを今一度洗い出し、地域に深耕していくビジネスを展開します。当社は、長年にわたって培った信用と実績により市民のみなさんに「安心できるブランド」として認識いただいています。それを強みに、高齢者に対するサービスや週末の粗大ごみの回収など、今の時代に求められるサービスで、大栄衛生らしい展開をしていきたいと考えています。

大栄衛生の事業

廃棄物収集運搬事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物の収集運搬

日々、西宮市内の各事業所から排出される一般廃棄物の回収をしています。回収した一般廃棄物は西宮市の処理施設に搬入し適正処理を行っています。

産業廃棄物収集運搬

あらゆる産業廃棄物を迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬します。業務の効率化を図るため、電子マニフェストを導入。多彩な車両や専用コンテナでニーズにお応えします。

個人向けサービス

粗大ごみの回収

玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、引越時などに発生する大量の不用品を一気に処分したいというニーズにお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

西宮市の家庭ごみの収集運搬を行っています。この事業を「市民サービス」と捉え、地域に根ざしたサービスで社会に貢献したいと考えています。

取り組み

「廃棄物計量システム」と

「従量課金制」

ごみを積み込むだけで重量が計測できるスケールバッカー車と、ごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入。ごみ収集量を「見える化」し、収集量に応じて料金を課す「従量課金制」で、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の削減に貢献します。

BCP（事業継続計画）の策定と実行

近年の自然災害や新型コロナウイルス感染拡大など、サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

TOPIC

西宮市内小学校でのごみと資源についての「出前授業」

西宮市内の小学校や高校で出前授業を行っています。実際にバッカー車の実物を身近に見てもらい、機能の説明やごみ袋の投げ入れ体験を行うことで、家庭ごみの出し方・分け方のマナー、リサイクルや環境問題等についての興味を深め、学びの機会を提供しています。



STAFF INTERVIEW

時短社員として子育てと仕事を両立

堤 咲 営業事務 2023年10月入社



飲食店の店長をしていましたが、コロナ禍で仕事がなくなる危機を感じて事務職に転職を考えました。当時、地域の環境を守るエッセンシャルワーカーが注目されていて、「地域の人に感謝される仕事」という良いイメージを持って入社しました。事務未経験でしたが、会社の方が優しく一から教えてくれてとても感謝しています。今は、子どもとの時間を大切にしたいので4時半までの時短の契約社員として働いていますが、子育てが一段落したら正社員をめざしたいです。家で会社の話をすることも多く、息子は「大人になったらママの会社と一緒に働く!」と言ってくれています。

大型車の免許取得をめざしています！

北村 星香 委託事業部 2023年5月入社

以前もトラック運転手をしていました。大栄衛生は女性が働きやすい環境が整っていること、土日休みで趣味の時間が取れることに魅力を感じ転職しました。現在の仕事は車を運転し、ごみを回収することです。助手の方とコミュニケーションを楽しみながら、安全に気をつけて仕事に取り組んでいます。住民のみなさんと挨拶を交わしたり、差し入れをいただいたり、「お疲れ様」といったあたたかい一言をかけていただくと充実した気持ちになります。今後は大型車の免許取得に挑戦して、より仕事の幅を広げたいです。



会話と景色を楽しみながら、定年まで働きたい

佐藤 裕子 委託事業部 2023年1月入社

以前は地元の工場でパートをしていました。通勤の途中で大栄衛生の女性スタッフがごみ収集をしているのを見ていて、「かっこいいな」と思ったことが、この仕事を始めたきっかけです。「やりたいけれど、本当に自分にできるかな」と、1年ほど考えた末に挑戦することになりました。入社当初は筋肉痛に悩まされましたが、徐々に体力と筋肉がつき、今では平気です。車の助手席に乗って、ドライバーとの会話や地元の景色を楽しみながら働いています。この仕事は、毎日変化があつて飽きることはありません。年齢を忘れる程元気な方が多い職場なので、先輩方を見習い定年まで頑張りたいです。



人材派遣事業

環境ビジネス業界に特化した人材派遣事業「G career（ジーキャリア）」は、エッセンシャルワーカーの育成から人材派遣、人材紹介、請負事業までをサポートしています。環境ビジネス業界の人材不足という課題解決だけでなく、採用や人材研修、定着率の向上、労働環境改善まで幅広くサポートすることで、業界全体の人事労務管理に貢献していきたいと考えています。



業界未経験の人材を育成するG careerの研修カリキュラム

ドライバー10日間、助手5日間の研修カリキュラムで、業界未経験者を育成し、「即戦力」として派遣できることが当社の大きな特徴です。研修には、直接の業務にかかわる運転技術や安全教育はもちろん、仕事に対する姿勢やマナー研修も取り入れ、環境ビジネス業界と地域社会に貢献する人材の育成をめざしております。



対応エリアと対応業界を拡大中

阪神間を中心に、大阪、神戸、奈良、京都、和歌山まで対応エリアを拡大。一般廃棄物業界だけでなく、産業廃棄物業界、ビルメンテナンス業界にも進出し、対応業種・職種も増やしています。

STAFF INTERVIEW



創意工夫で効率を追求する

松木 俊一 環境事業部 委託 2022年10月入社

ごみ回収は、決められたルートで決められた人と会うルーティーンの仕事だろうとイメージして入社しました。でも、いざ現場に出るとなかなかセオリーのある仕事。みんなすごく工夫して効率的に仕事をしています。それを見て参考にして、自分もスキルを上げていくのが楽しくなってきた、さらに毎日、体を動かして人と接してお客様をあげていると性格まで明るくなってきました。今では、もっと早くこの仕事に出会っていればよかったと思っています。

現場出身の強みを生かす

新井 義人 環境事業部 営業課 2022年9月入社

休日休暇や福利厚生、成長できる環境と、すべてにおいて魅力的だと感じ入社しました。入社してから2年間の現場経験を経て、営業職へのキャリアチェンジの機会がめぐってきたため、「やったことのないことに挑戦したい」という思いで、営業職に異動しました。現場職出身であることは、お客様から信頼していただける強みになっています。新規案件を自分で見つけて契約までもっていったときはうれしいですね。将来は、「大協のことは新井に聞けば間違いない」と言われるくらい、会社のことも仕事のことも知り尽くして成長したいです。



会社概要

資本金：10百万円
従業員：92名

代表取締役社長
平井 里美

株式会社大協

伊丹市のごみ収集事業

人材派遣業

「人と環境」をテーマに、持続可能な事業を展開します

株式会社大協は、伊丹市を中心として廃棄物収集をおこなっている既存事業と新たに立ち上げた人材派遣事業の2つの事業を展開しております。廃棄物収集運搬事業は、地域社会において、なくてはならない社会インフラとしての役割を果たしつつ、安心・安全・丁寧な作作品質を心掛けて、サービスの向上をめざしております。人材派遣事業は、環境ビジネス業界への人材派遣を通じて、人材不足解消だけでなく、働きやすい職場環境づくりや業界全体の底上げにも尽力していきたいと考えております。

今期の方針

サステナビリティへの取り組みを大きなテーマとして、「働きやすい職場づくり」を実現することで、人材育成と定着をめざしています。今年度は、従業員と対話をする中で、ベースアップを実施することを決定し推進してきました。また、収集運搬事業では大型車両を中型・小型車両に変更することを計画しており、従業員の作業負荷の軽減を図り、年齢や性別に関係なく、長く安心して働ける職場を実現していきたいと考えています。組織としては、将来の幹部候補としてチームリーダー制を設け、みんなが活躍できる場を提供することで、将来のキャリアアップがイメージしやすい体制を整えています。

環境ビジネスに特化した人材派遣事業「Gキャリア」は、毎年順調に成長しており、立ち上げ当初のごみ収集作業員やドライバーに限らず、選別作業員や特殊車両ドライバー、事務職や営業職など幅広い職種のスタッフが、派遣先で活躍しております。今後も環境ビジネス業界に特化しつつ、派遣先のニーズに応じて、職種やエリアの幅を広げて、更なる事業展開をしていきます。

大協の事業

廃棄物収集運搬事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物および産業廃棄物の収集運搬

事業所から搬出される一般廃棄物を定期的に回収し、市の処理施設に搬入。工場から排出される産業廃棄物、医療機関から排出される感染性廃棄物などの収集運搬も行っています。また、あらゆる産業廃棄物も迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬。業務の効率化を図るため、電子マニフェストを導入。多彩な車両や専用コンテナでニーズに応えます。

個人向けサービス

粗大ごみの回収

玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、大量の不用品を一気に処分したいというニーズにお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

伊丹市内の生活系ごみの収集運搬を行っています。この事業を「市民サービス」と捉え、地域に根ざしたサービスで社会に貢献したいと考えています。

取り組み

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」

ごみを積み込むだけで重量が計測できるスケールパッカー車と、ごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入。「従量課金制」で、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の経費削減に貢献します。

BCP（事業継続計画）の策定と実行

サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

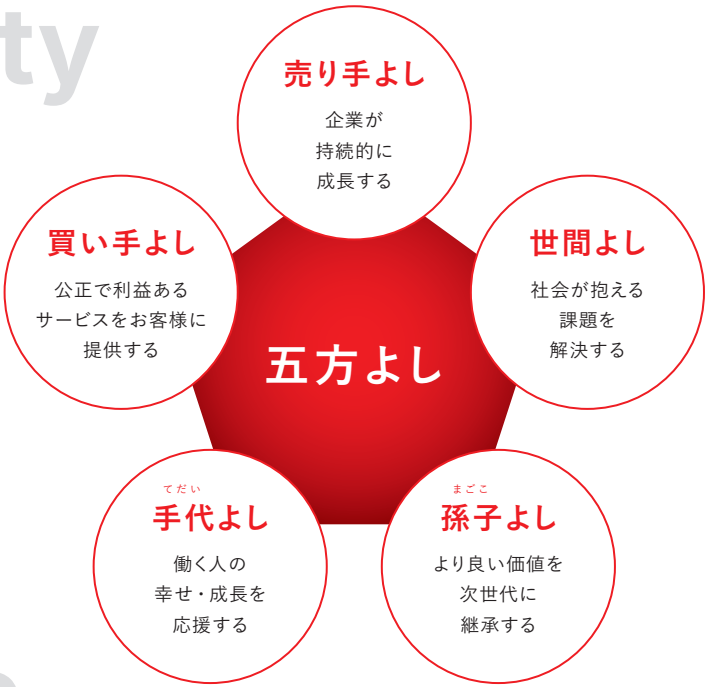
3S「整理」「整頓」「清掃」の実行

職場の環境を美しく保つことを通して、業務の生産性や安全性、品質を向上させることをめざしています。

Sustainability

サステナビリティ基本方針

経営理念である「五方よし」をサステナビリティの基本方針とし、社会課題や環境課題に向き合い、事業を通じて持続的な企業価値の向上をめざします。



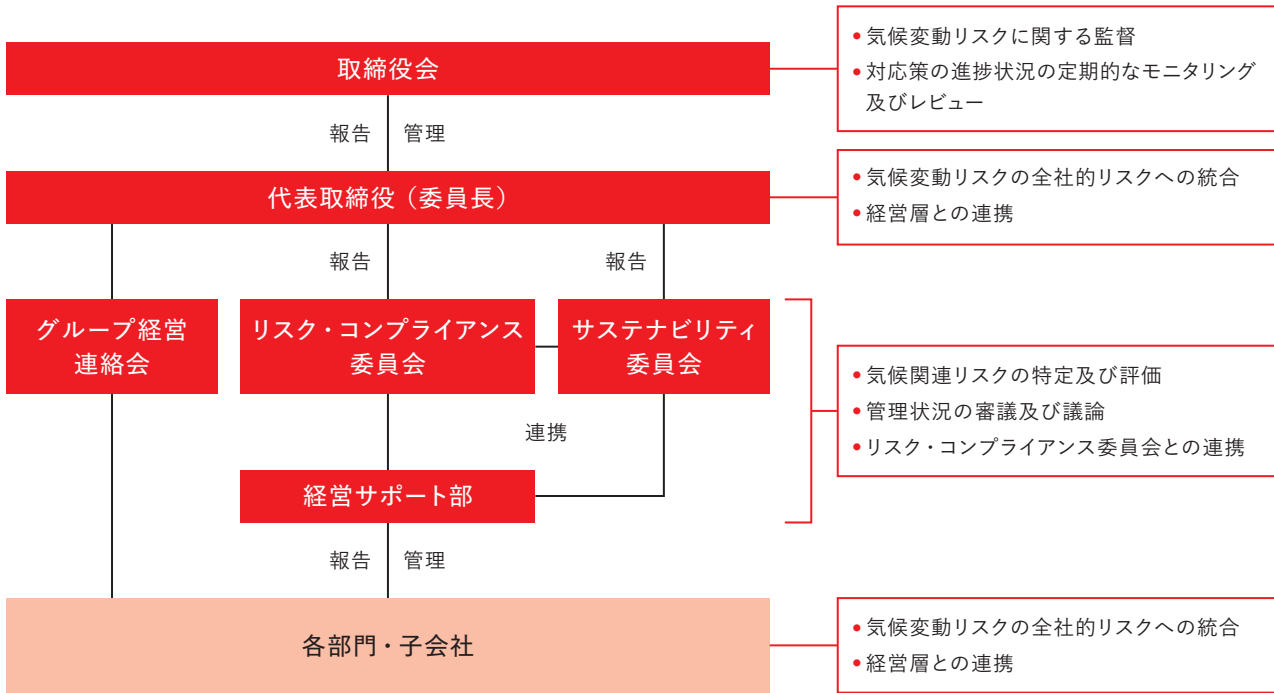
Governance

ガバナンス

サステナビリティを巡る課題に関するガバナンス・リスク管理体制図

気候変動をはじめとした地球規模の環境問題への配慮、人権の尊重、従業員を含むすべてのステークホルダーへの公正・適正な事業活動など、社会や企業のサステナビリティを巡る課題解決を事業機会と捉え、これに向けた取り組みを推進するため「サステナビリティ委員会」を2023年11月に設置いたしました。

当委員会はサステナビリティの方針策定や課題に対する取り組み推進やモニタリング、マテリアリティ（重点課題）の特定を担っており、その内容を原則年2回グループ経営連絡会に報告してサステナビリティ活動やKPIのモニタリングを行う仕組みとしています。



Materiality

重要課題（マテリアリティ）

マテリアリティの特定

社会課題の解決に貢献しながら持続的に成長していくために重要課題を特定しました。

ダイバーシティ・働きがい	だれもが自身の能力を最大限に発揮し、挑戦できる環境をつくる
労働環境・安全・健康	すべてのステークホルダーに対して、安全・安心に過ごせる環境をつくる
脱炭素	協働や連携により、より広い視野でカーボンニュートラルの構築を目指す
資源循環・環境保全	事業を通じて持続可能な社会の実現／発展に貢献する

マテリアリティの特定・見直しプロセス



ESGの取り組み

当グループは創業以来、地域の暮らしと産業が抱える課題に真摯に応えることを使命に事業を展開してまいりました。また、社会とともに歩む企業グループとして社会的責任を果たすことを心がけております。コーポレート・ガバナンスの強化はもちろんのこと、環境、社会の経営課題に長年にわたって取り組み、一歩ずつ前進してまいりました。今後もこれまで培ってきた経営基盤のもと、社会と産業における新たな課題の解決に向けて注力してまいります。



コーポレート・ガバナンス > P34

■組織統治 ■法令順守 ■情報開示・説明責任



環境における取り組み > P39

■マテリアルバランス ■活動の目標と実績 ■環境負荷低減の取り組み ■環境パフォーマンスデータ



従業員とともに > P43

■活動の目標と実績 ■労働安全衛生の取り組み ■人事に関する取り組み ■安心して働ける環境づくり



地域社会とともに > P48

■活動の目標と実績 ■お客様とのコミュニケーション ■消費者課題の取り組み



コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に向けた取り組みを強化し、ステークホルダーのみなさまの信頼に応えてまいります



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じて優れたサービスを提供することにより、社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

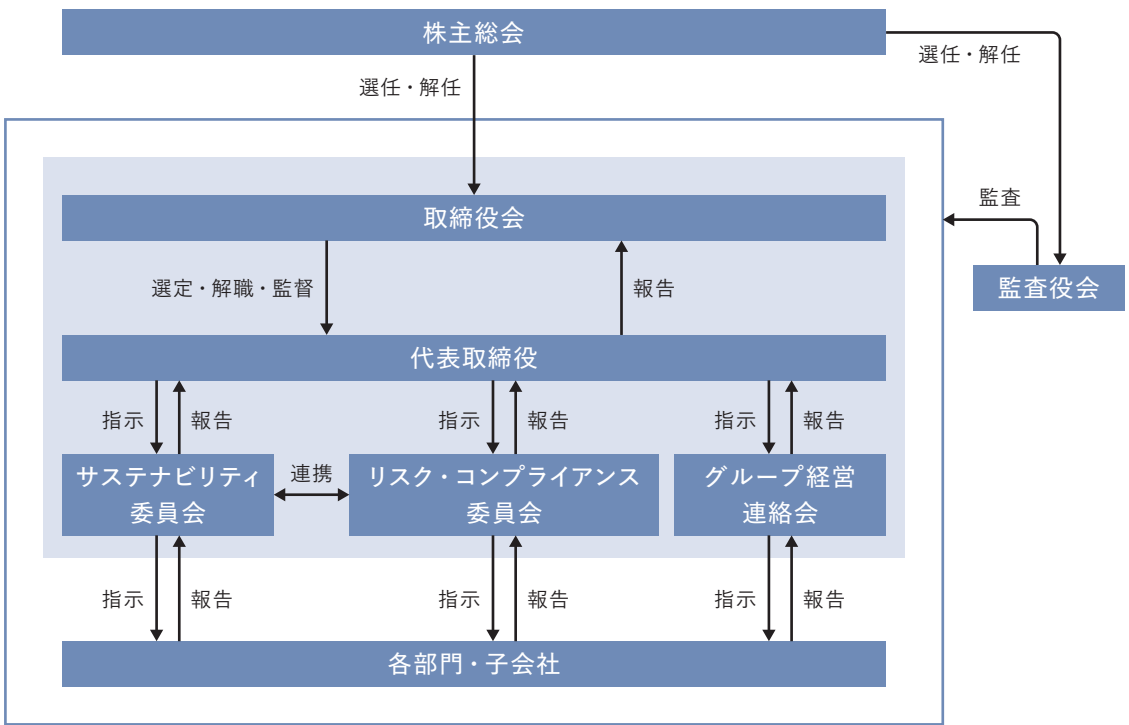
組織統治

経営管理体制

「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

当グループは、すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業および経営に努めています。また、グループ全体の持続的成長および中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレート・ガバナンスの構築、強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体系図



その他の会議体

各社事業会議／定例会 会社の方針や課題について協議することで、円滑な業務執行を図っています。

取締役会

経営の重要な意思決定と
取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は7名（うち社外取締役1名）により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っています。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言および助言を得ております。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理と
コンプライアンスの徹底に取り組みます

月に1回開催する当委員会は、グループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、子会社代表取締役社長、取締役および委員長から指名された委員で構成されています。会合では潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、総合的なリスク管理に努めるとともに、研修教育を行い、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

リスク・コンプライアンス委員会では2024年度において、下記のような議題について報告、協議などを行ってまいりました。

反社会的勢力の チェック	販売先や取引先が反社会的勢力でないかのチェック状況の報告および課題についての協議
労務管理	時間外労働時間の実績（単月、累積）、入退社数の状況、有給休暇の取得状況などの報告および課題についての協議
内部監査報告・ 改善状況報告	実施した監査内容の報告および改善状況の報告
教育研修	研修の計画および実施 ・情報セキュリティの基本、情報セキュリティと密接な個人情報保護法（全従業員向け） ・ハラスメント総合研修（全従業員向け） ・管理職のためのパワーハラスメント防止研修（役職者向け） ・著作権基本研修（営業、管理、情報システム、役職者向け） ・コンプライアンス研修（営業、管理、役職者向け） ・独禁法（フリーランス法&下請法改正ポイント）（営業、管理、役職者向け） ・労務管理（役職者）
事故報告	各社で発生した事故（車両や設備などでの事故および情報システム障害やセキュリティ事故含む）の概要および防止策などの報告
その他	人事労務関連法令の改正状況の共有

監査役会

業務執行の監視、監督を行っています

当社の監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名によって構成され、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っています。社外監査役2名は、それぞれ弁護士、公認会計士で、専門的見地と独立した立場から監査を行っています。取締役会のほか、グループ経営連絡会などの重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い是正を求めています。

VOICE



グッドホールディングス
株式会社
常勤監査役
八鳥 尚志



グッドホールディングス
株式会社
社外監査役
上田 憲



グッドホールディングス
株式会社
社外監査役
南方 得男

日々業務をやっていると、自分なりに注意をしていますが、事故や災害が起こったり、トラブルに巻き込まれることがあります。もちろん好ましいことではありませんが、本レポートでも、当グループ各社で発生した事故・災害等が取り纏められています。

このように当グループで相当数の事故・災害等が毎年発生している以上、経営上のリスク管理の観点からは、予め発生可能性を想定したうえで、実際に発生した場合の損失回避や軽減のための対応、再発防止ないし予防策を検討しておくことが必要かつ大切といえます。

監査役は、取締役の職務執行が適正に行われているかを調査し、必要に応じて是正等を求める立場にありますが、このような事故・災害等の情報に接した場合、まずは従業員をはじめ関係者を保護し、安全を確保したうえで、適時に取締役により適切な対応が取られているのかを監視し、チェックすることが求められます。また、事後対応としても、事故・災害等の発生原因の調査が適正に行われているかを確認するとともに、取締役による日常的な安全教育・指導が適切であったかを検証することも求められます。

このように事故・災害等の一つの事象を例に取っても、監査役が求められている役割が相当多様で幅広いものであることがわかりいただけるかと思います。

当グループは、グループ全体の健全な持続的成長を目指していますが、そのために監査役は、いわば取締役のお目付け役として、程よい緊張関係を保ちながら、積極的に監視機能を果たすことが求められているわけです。

ただ、監査役は、決して堅苦しくて怖い存在ではありません。皆さんも日々の業務でおかしいとか疑問に思うことがあれば、私たち監査役に気軽にご相談ください。

グループ経営連絡会

グループ全役員および、
経営層の幹部による連絡会で協議を行います

グループ全役員および、経営層の幹部、監査役で構成され、月に1回開催しております。各社の業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

透明性のある経営と従業員との協働

従業員に業績をオープンにしています

従業員の事業運営への参画意識を高めるため、グループ各社では会社の業績をオープンにしています。

全社および各部門の収益状況、その分析などを開示し、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっております。

サステナビリティ委員会

サステナビリティに取り組んでいます

サステナビリティに関する方針・目標・実行計画の策定、サステナビリティ課題に対する取り組み推進やTCFD提言に関する情報開示に加え、モニタリング、マテリアリティ（重点課題）の特定を行っています。

内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見を図っています

当グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

情報システムセキュリティ体制

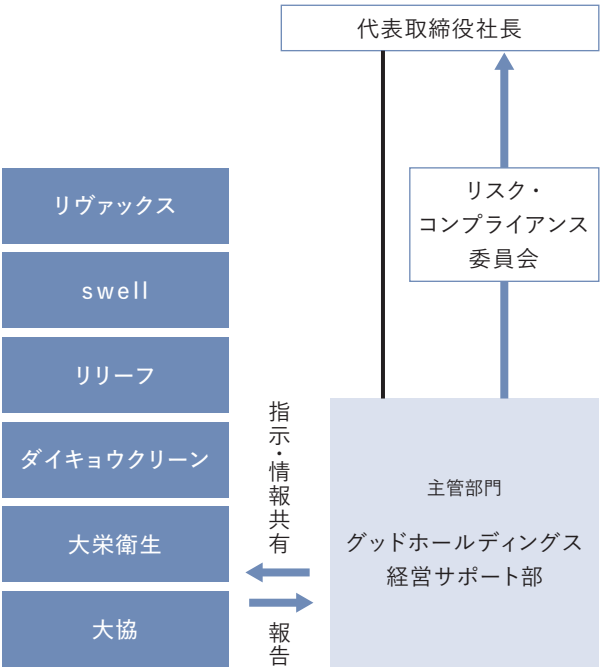
事業活動において取り扱う情報資産の保護を
私たちの責務と捉え、サービスの継続的な提供と
健全な事業の発展に努めています

当グループは、情報漏洩、改ざん、紛失などのリスク回避・低減のため、「情報セキュリティ安全管理規程」ならびに「IT管理規程」を定め、情報セキュリティに関するリスク管理を行っています。

また、役員含む全従業員に対して、情報資産管理の教育や具体的な安全対策を講じ、徹底した情報資産の保護・管理と継続的な改善に取り組んでいます。

なお、万が一の情報セキュリティトラブル発生時は、誠実かつ適切に対応する体制を整備しています。

情報システムセキュリティ体制



法令順守

法令順守状況

2024年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。

2024年度においても、前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令（抜粋）

法令	内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付けなど
大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準など
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検および整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任など
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検など
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数など

ISO 認証の取得

環境・安全マネジメントシステムの継続的改善をおこなっています

リヴァックスでは2000年9月にISO14001を、2008年10月にはOHSAS18001（現在はISO45001へ移行）を、大協では2008年1月にISO14001（環境マネジメントシステム）を取得しています。それぞれ法令遵守、環境保全、事故ゼロなどの目標を掲げ、PDCAサイクルを通じてマネジメントシステムの継続的な改善と適正な運用を行っています。



過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物の収集運搬を行う株式会社リヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託および受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。とりわけ、産業廃棄物事業を主体とする株式会社リヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行

事業活動だけでなく、社会や環境への取り組みをお伝えするコミュニケーションツールとして、毎年発行しています

廃棄物処理事業そのものや、当グループの取り組みを広く知っていただきたいとの思いで、株式会社リヴァックスは2002年から、株式会社大栄衛生および株式会社大協は2008年から報告書を発行してまいりました。2015年からはグループ統括で毎年発行しております。

今後もステークホルダーのみなさまと私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールとして、引き続きその充実に努めてまいります。



産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度※」が創設されました。グループ各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。同制度の事業の透明性に係る基準に沿って、当グループの許可内容や財務諸表などの情報を、公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」に公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準（①遵法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取組 ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性）すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

「産廃情報ネット」<https://www.sanpainet.or.jp>

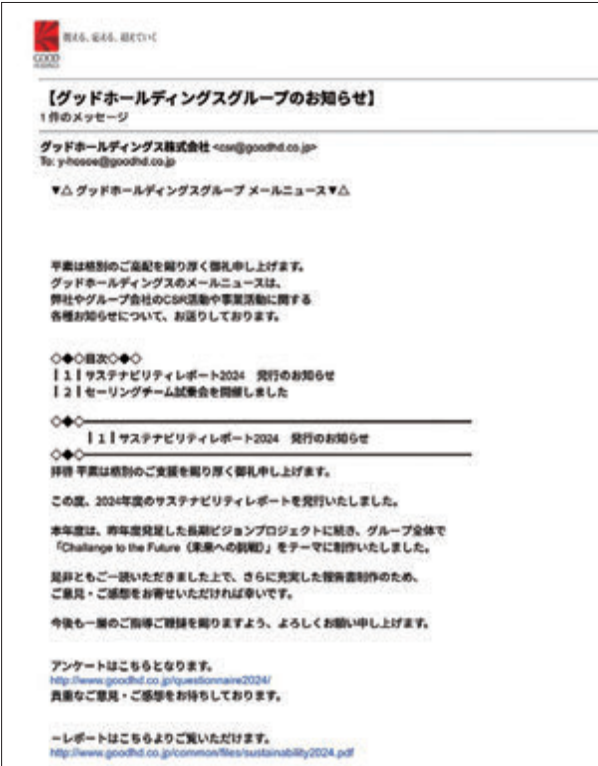
メールニュース・Webでの開示

活動報告、活動状況などを
掲示・メール配信しています

毎月、グループ各社の最新の活動報告やセーリングチームの活動状況などをWebサイト (<https://www.goodhd.co.jp/>) にて掲載しております。また、各社が自社の活動報告やイベント告知をお知らせするほかに、グループ共通で展示会・セミナーの案内などをメールニュースにて配信しています。これ以外にも月1回、株式会社リヴァックスでは「廃棄物・リサイクル関連法の最新情報」として、法改正の状況や行政が主催する案内を配信しています。



Webサイト



メールニュース

環境における取り組み

全グループを挙げて、
事業活動における環境負荷の低減に努めています

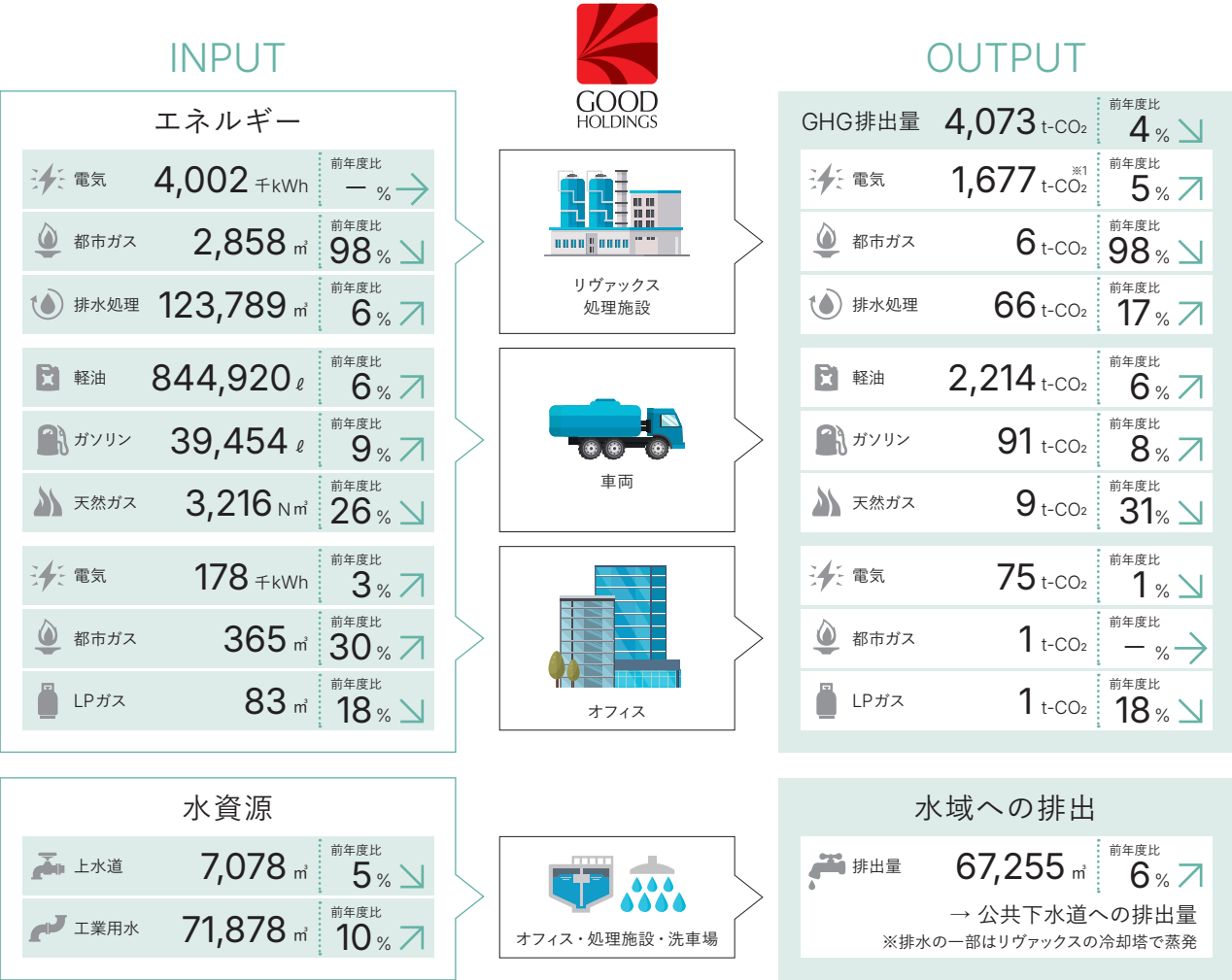


基本的な考え方

地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは私たちの責務です。グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境にともなう環境負荷の低減などに努めています。

マテリアルバランス

2024年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量（INPUT）と二酸化炭素（CO₂）などの環境への排出量（OUTPUT）は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握したうえで、資源の有効活用および環境負荷の低減に取り組んでいます。



二酸化炭素（CO₂）の排出係数 参考データ（環境省）

電気：0.00042 t-CO ₂ /kWh	都市ガス：0.00205 t-CO ₂ /m ³	LPガス：0.00653 t-CO ₂ /t
軽油：0.00262 t-CO ₂ /ℓ	ガソリン：0.00229 t-CO ₂ /ℓ	天然ガス：0.00279 t-CO ₂ /m ³

※1 トラッキング付非化石証書の導入によりメタンプラントでは2024年度はCO₂排出量ゼロを実現しております。

活動の目標と実績

活動企業	2024年度目標	2024年度実績	結果	2025年度目標
リヴァックス				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減	電気：160.71kWh/t以下	124.91kWh/t	○	・廃棄物リサイクル率アップ （廃棄物処理業のリサイクル量増加、自社副産物の再資源化）
	燃費：4.20km/ℓ以上	4.27km/ℓ	○	
	電気：4,996kWh/月以下	5,398kWh	×	
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	燃費：（営業部）：23.64km/ℓ以上	23.63km/ℓ	×	・再エネ発電量の増加 （バイオガス発電量・バイオマスボイラー発電量増加）
	燃費：（swell事業部）19.39km/ℓ以上	18.75km/ℓ	×	
	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ	5	×	
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求	悪臭・排水の自主基準値遵守	悪臭：基準値内 排水：自主基準超過 （役所採水においては基準値以下）	×	・温室効果ガス（GHG）の排出量削減 （化石エネルギー適正使用、電気使用量削減）

swell				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減	—	—		燃費：本社業務 8.28ℓ/h
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	—	—		燃費：営業車 前年度維持 18.75km/ℓ
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求	—	—		処理前契約の徹底 未締結0件
	—	—		過積載ゼロ

リリーフ				
エネルギー使用量削減	電気：27,867.25kWh以下	27,967.75kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用（燃費の維持）	ガソリン：15.02km/ℓ以上	12.4km/ℓ	○	前年度以上
	軽油：6.59km/ℓ以上	6.1km/ℓ	×	前年度以上
環境負荷低減	事務所内の廃棄物減量：793kg以下	800kg	×	前年度以下

ダイキョウクリーン				
エネルギー使用量削減	電気：27,867.25kWh以下	27,967.75kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用（燃費の維持）	ガソリン：12.11km/ℓ以上	12.21km/ℓ	○	前年度以上
	軽油：5.45km/ℓ以上	5.54km/ℓ	○	前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減：719m ³ 以下	777.5m ³	×	前年度以下
	事務所内の廃棄物減量：312.4kg以下	337.7kg	×	前年度以下

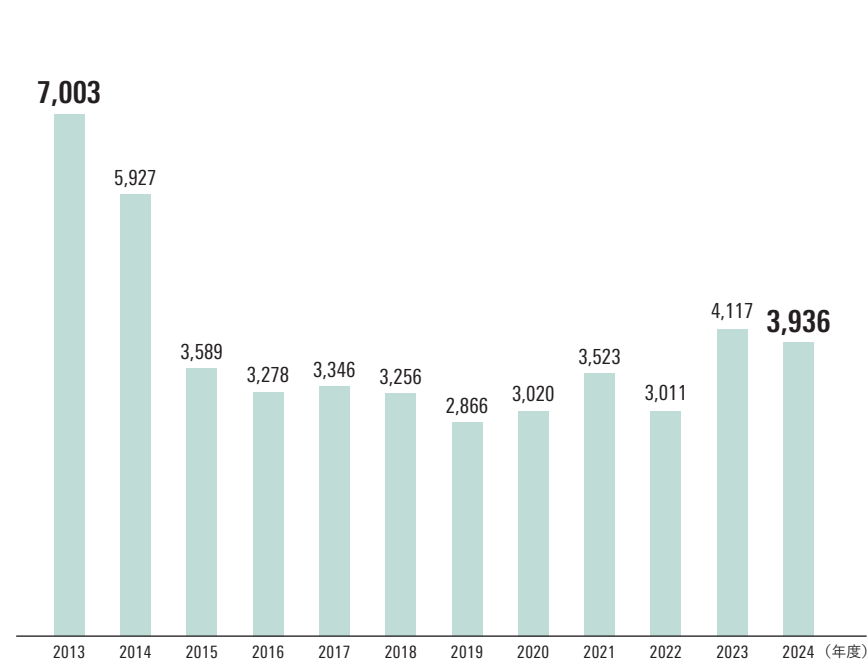
大栄衛生		※廃棄物量について、2024年4月～6月の期間において測定漏れが発生しており、既存データからの推計値を含んでおります。		
エネルギー使用量削減	電気：27,867.25kWh以下	27,967.75kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用（燃費の維持）	ガソリン：11.5km/ℓ以上	14.8km/ℓ	○	前年度以上
	軽油：2.83km/ℓ以上	3km/ℓ	○	前年度以上
	天然ガス：5.35km/Nm ³ 以上	3.33km/Nm ³	×	前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減：2,354.8m ³ 以下	2,721.3m ³	×	前年度以下
	事務所内の廃棄物減量：508.2kg以下	893.0kg※	×	前年度以下
	グリーン購入の推進	コピー用紙などの対象品目の購入	○	継続的な実施

大協				
エネルギー使用量削減（1時間あたり）	電気：27,155kWh以下	29,167kWh	×	前年度以下
	ガソリン：14.94km/ℓ以上	15.5km/ℓ	○	前年度以上
	LPガス：100.4m ³ 以下	82.5m ³	○	前年度以下
効率的な資源の使用（燃費の維持）	コンテナ車：4.77km/ℓの±3%	4.73km/ℓ	○	前年度比±3%
	大型車：2.68km/ℓの±3%	2.63km/ℓ	○	前年度比±3%
	小型車：3.55km/ℓの±3%	3.55km/ℓ	○	前年度比±3%
	平ボディ車：5.49km/ℓの±3%	5.45km/ℓ	○	前年度比±3%
	水の使用量削減：1,805m ³ 以下	1,882m ³	×	前年度以下
環境負荷低減	紙の使用量削減：227.25kg以下	211.50kg	○	前年度以下
	事務所内の廃棄物減量：423kg以下	333kg	○	前年度以下

グッドホールディングス				
エネルギー使用量削減	電気：27,867.25kWh以下	27,967.75kWh	×	前年度以下

環境負荷低減の取り組み

GHG排出量 (t-CO₂)

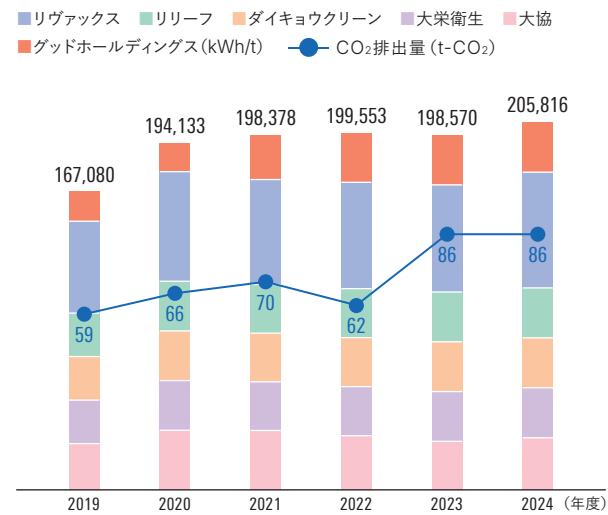


グッドホールディングスグループでは、リヴァックスが2014年に新設したバイオマスボイラーを活用することで、2013年度に7,003t-CO₂だったCO₂排出量が2024年度には4,074t-CO₂と、58%の削減を達成しております。

私たちはこの実績を基準として、2050年度カーボンニュートラルの実現に向け、2024年度からは、廃水処理由来のメタンガスや一酸化二窒素もGHG排出量に含めて算定を開始し、グループ全体の排出量削減に包括的に取り組んでいます。

また、2024年度も前年に引き続き、「西宮バイオガス発電プラント」において使用した電力をトラッキング付非化石証書の導入で再生可能エネルギー由来電力に切り替え、実質的なCO₂排出量ゼロを達成しています。

オフィスの電気使用量

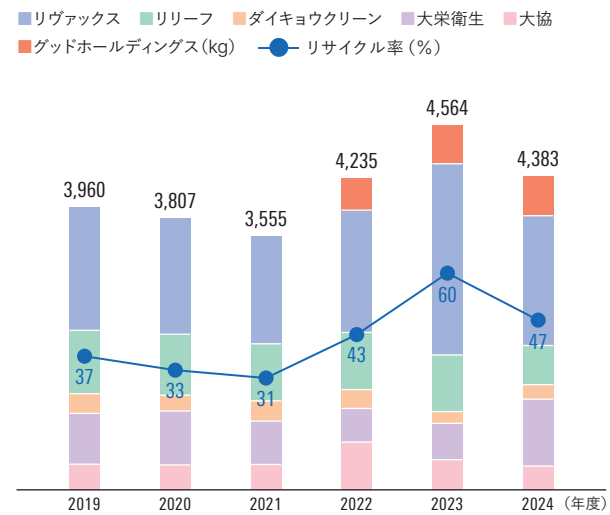


照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

昨年に引き続き空調の温度管理や従業員への節電意識の向上を実施しておりましたが、従業員増加などによりオフィスでの電気使用量は昨年より4%増加いたしました。

今後も換気をしっかりと行いながらオフィスでの照明点灯時間の短縮と、空調の温度管理などによる省エネルギー活動を実施してまいります。

オフィスのごみ排出量



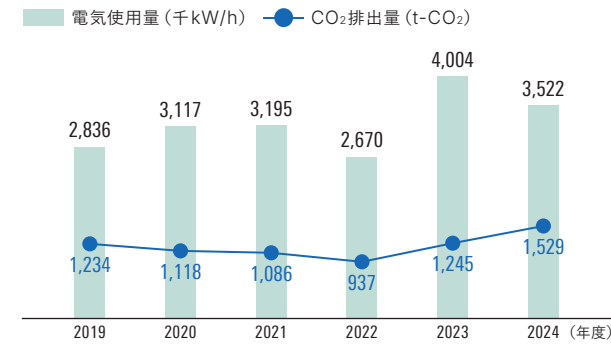
分別・リサイクルの徹底に努めています

オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。

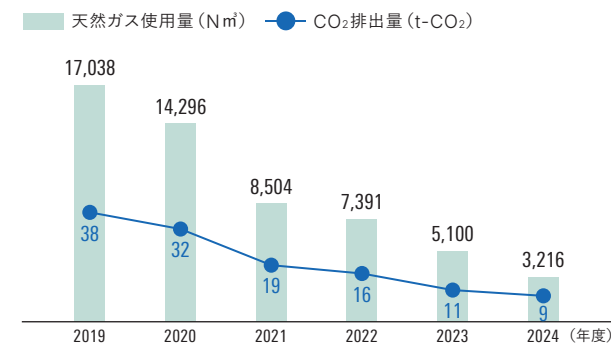
※一部期間において測定漏れが発生したため、既存データからの推計値を含みます。

環境パフォーマンスデータ

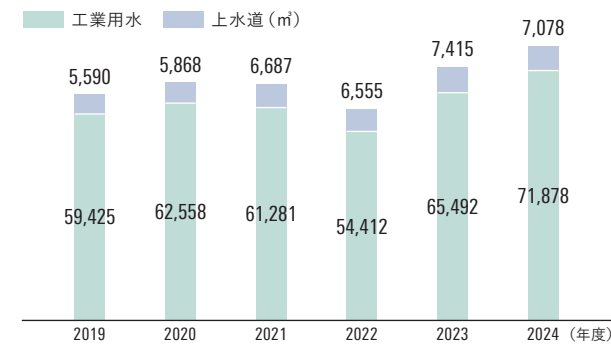
処理施設の電気使用量



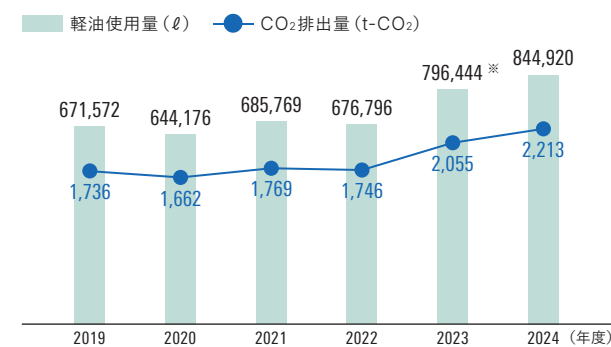
天然ガス使用量



水使用量

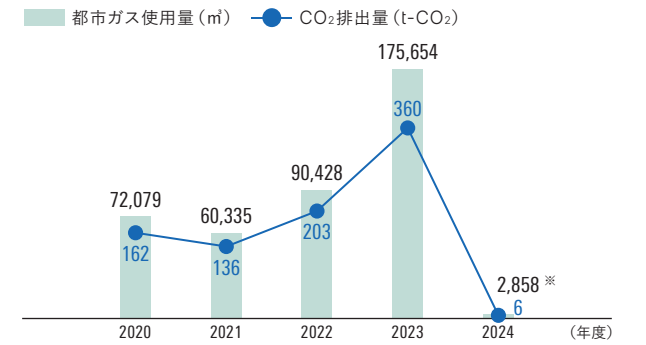


軽油使用量



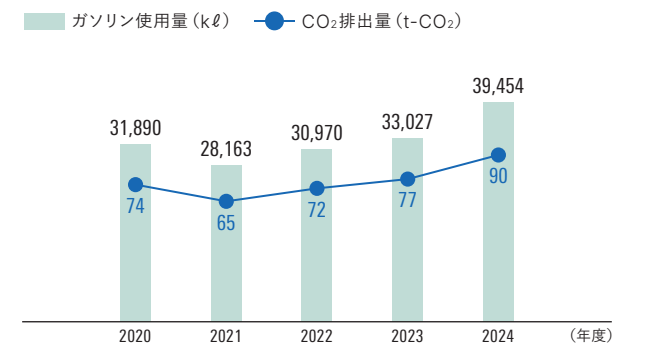
※2023年度のデータに一部誤りがあり、修正数値にて算定しております。

処理施設の都市ガス使用量

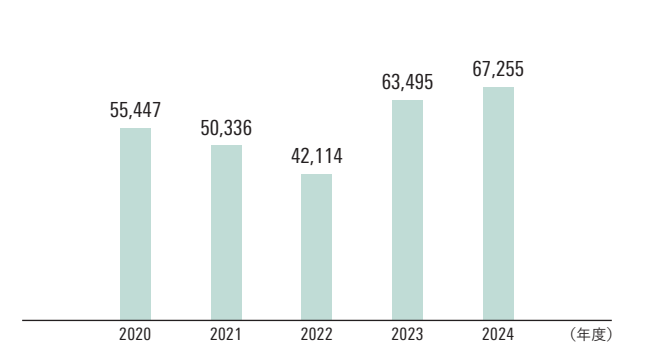


※2024年度は定期修繕時のみの利用だったため使用量が大幅に減少しております。

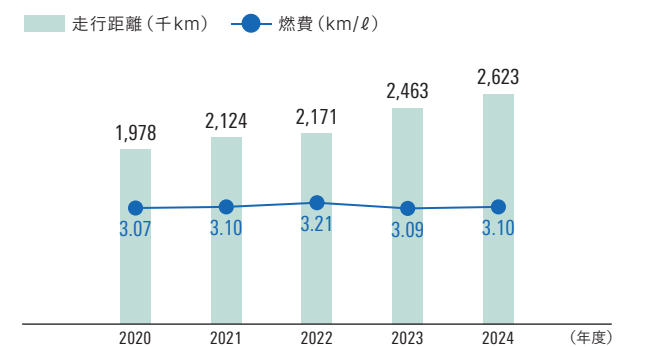
ガソリン使用量



水域への排出量 (m³)



軽油の燃費



従業員とともに

一人ひとりが仕事に誇りと生きがいを持てる
企業グループをめざして



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性和普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいをもって働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社員ならびに従業員とその家族を含め、お客様のために働くすべての人たちが安心して働ける職場環境づくり

2024年度目標			2024年度実績	結果	2025年度目標	
リヴァックス	事故ゼロ	労働災害：0件	6件	×	・事業活動での無事故無災害 （労安事故ゼロ、物損事故前年50%以下 安衛則違反ゼロ）	
		物損事故：0件	15件	×		
	安心して働ける 職場環境づくり	教育研修および面談の実施	・試用期間中のフォロー面談 ・教育訓練スケジュールに則った 研修の実施		○	・健康経営の推進 （健康診断受診率100%） ・必要人材の確保 （快適な職場作り、人員計画通りの採用） ・人権の尊重 （ハラスメント研修受講率100%）
		社内一斉清掃の実施：年2回	年2回実施	○		
		従業員の疾病予防・健康増進	・ストレスチェックの実施 ・定期健康診断の実施 ・視野障害の早期発見対策の実施		○	
swell	—	—		従業員の疾病予防・健康増進		
リリーフ	事故件数の削減	事故件数：15件以下	労働災害：2件／物損事故：8件	○	9件以下（前年度比10%削減）	
ダイキョウクリーン	事故件数の削減	事故件数：13件以下	労働災害：1件／物損事故：14件 人身事故：1件／作業事故：1件	×	15件以下（前年度比10%削減）	
大栄衛生	事故件数の削減	事故件数：24件以下	労働災害：4件／物損事故：21件 人身事故：1件	×	23件以下（前年度比10%削減）	
大協	事故件数の削減	事故件数：7件以下	労働災害：5件／物損事故：5件 人身事故：1件	×	6件以下	
グッドホールディングス ※グループ全体の数値を 記載しております	情報セキュリティ 事故件数	深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下	限定的、軽微事故：2件	○	深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下	
	情報システム 障害件数	深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下	限定的、軽微事故：1件	○	深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下	
	36協定違反：0件		0件	○	0件	
	有給消化取得5日以上：100%		100%	○	100%	

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント／ヒヤリハット

毎年すべての作業工程におけるリスクを
洗い出し、対策を講じています

株式会社リヴァックスでは、ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2024年度は1,062件の危険源を抽出し、その中からリスクポイント

の高い危険源を249件特定し、リスク管理を実施しました。リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例：安全柵の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策を講じています。また、事故に至らずともヒヤリハットの抽出も常時行っており、2024年度は177件でリスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

収集業務の全車両に搭載し、
事故を未然に防ぎます

株式会社大栄衛生、株式会社大協では、業務で使用する全車両にドライブレコーダーを車両前後に搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立てています。

さらに2023年1月からは一部の収集車両でリアルタイムに位置情報を把握し、収集ルートにおいて安全で効率的な運行や経済走行による燃費向上に役立つシステムを導入し、安全運転やCO₂削減に取り組んでいます。



ドライブレコーダーの映像

環境・安全に対する対策

安全管理および廃棄物管理に関する
研修に参加しています

廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全および労働安全に対する意識づけを目的とし、大阪府産業資源循環協会が実施している廃棄物管理士講習会に参加いたしました。また、廃棄物の収集・運搬過程についても知見を深めるため、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会へも参加しております。

グループの安全管理体制の構築と推進

労働安全推進プロジェクトを設置しています

グループ全社の労働安全管理者が月1回集まり、労働安全の目標設定、教育スケジュールの作成と進捗確認、関連法令や事故事例の共有等を行い、安全管理体制を構築・推進しています。

交通安全運転講習

作業員全員が安全講習を受講し、
事故防止に取り組んでいます

当グループは全体で150台の業務車両を保有しております。事業を行ううえで「安全」は最優先事項であり、グループを挙げて交通事故防止に取り組んでいます。安全運転を徹底するための教育の一つとして、清掃組合主催の交通安全講習会に作業に携わる従業員が全員参加し、事故の実例や普段見落としがちな危険について学んでいます。



交通安全講習会

5S活動の推進

「整理・整頓・清掃・清潔・躰」

きれいな職場を保つことが労働安全衛生に繋がるとの考えのもと、これまでの3S活動に加えて、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進しています。備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要な数および保管場所決め、だれが見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。これらの活動は、仕事に使う備品や道具を探し回するような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。



人事に関する取り組み

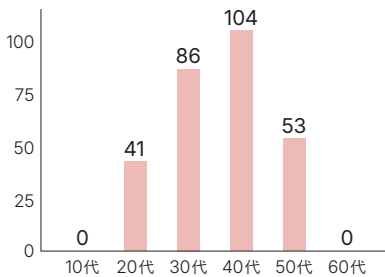
人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しています

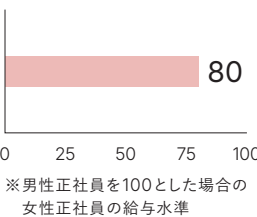
当グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ仕事の成果が正当に評価される人事制度をめざしております。人事制度は、社内外の環境の変化に適応し、その時の状況に合ったものに変化させていくことが大切であると考えております。2018年度には給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知識型」と

3つの観点を調和させた制度で、有資格者や専門的な知識を有する社員には、それに見合った手当を支給するなどの見直しを行い、2024年度時点で合計53名に資格取得の手当を支給しております。また、2020年度は同一労働同一賃金に対応するため、アルバイトや派遣社員等有期契約社員の待遇面や福利厚生面の見直しを行い、就業規則などを改訂し2021年度から施行しております。加えて、新型コロナウイルス感染対策としてのテレワーク実施状況を踏まえて、在宅勤務規程を新たに制定しております。

2024年度の正社員の年齢構成(名)



2024年度の男女間の賃金格差(男性=100※)



人事関連データ

種類	年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
社員	(名)	214	228	240	262	272	284
アルバイト	(名)	65	68	74	89	119	128
従業員数*	(名)	279	296	314	351	391	412
女性従業員比率	(%)	11.6	13.5	12.1	13.4	14	14
女性役職者比率	(%)	8.5	8.5	10	9.9	15	12
社員平均年齢	(歳)	39.0	40.2	39.6	39.5	40.0	40.6
社員平均勤続年数	(年)	8.5	8.9	7.2	8.6	8.3	8.9
社員離職率	(%)	13.2	9.5	11.5	14.8	15.2	15.9

※ 社会保険未加入の時短勤務対象者も含む

当グループの男女間賃金格差は80で、2024年度の日本国内平均の75.8に対して格差は小さい結果でした。(令和6年賃金構造基本統計調査結果 参照)

格差については女性の平均勤続年数が男性に対して3.7年短いこと、女性役職者の割合が男性に対して1/6の人数であることが要因です。

資格取得支援制度の活用

働く人のキャリアアップを目的に資格取得支援制度を設けております

勤務するうえで必要となる資格の技能講習や定期的な研修の受講はもちろんのこと、社員全員が安全かつ質の高い業務遂行ができるよう資格取得の支援を行っております。

各種規程の制定や改定

法令の改正とともに、人事制度や働き方の改善や選択肢の拡大に対して、関連する規程の改定や新たな規程の制定を継続的に行っております。2024年度には、下記記載の規程制定および改定を行いました。

制定	資格取得貸付金規程
改定	情報セキュリティ安全管理規程、 育児介護休業規程、経理関連規定、業務分掌規程

第一種衛生管理者	2名
フルハーネス型墜落抑制用器具特別教育	3名
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	
第2種酸素欠乏危険作業主任者	6名
酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育	3名
高圧／特別高圧電気取扱作業者特別教育	1名
廃棄物管理士	4名
安全運転管理者	1名
実家信託アドバイザー	2名

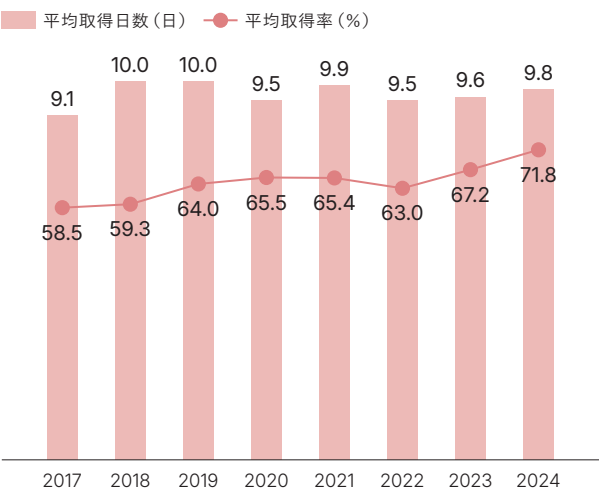
安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・インテグレーション

ライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

当グループでは、性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めております。また、2018年度から働き方改革の一環として、勤怠管理システムを当グループで導入しました。同システムの導入により残業時間や有給休暇などの効率的な管理が可能となっています。これにより、従業員本人が自分の勤務状況について確認ができるとともに、上司が部下の残業時間などをリアルタイムで確認・把握できるようになったことで、仕事の割り振りや配分を適宜調整することなどが可能となり、結果的に残業時間の低減につながっています。

有給休暇取得状況



また、従業員のワーク・ライフ・インテグレーション(仕事と生活の融合)の実現を重要テーマと捉え、出産や子育て、家族の看護や介護など、多様なライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。具体的には、配偶者の出産時に3日間の特別休暇制度を設けているほか、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしております。また、2020年度は震災や台風・暴風雨などによる災害時に特別休暇を取得できるように就業規則を改定しました。さらに新型コロナウイルス対策を機に、在宅勤務の整備を行い、2021年度から在宅勤務制度を導入しております。2022年度は、育児・介護休業法改正に伴い、育児・介護休業規程を改定し、男性社員の育児休業の取得を推進しております。このように環境の変化や働き方の多様化に対応し、従業員の安全安心につながる制度となるよう継続した改善と整備を行っています。

主な支援制度

制度名	制度の内容	2024年度 利用者数／取得比率
産前産後休業制度	出産前および出産後において一定の期間で休業が可能です	0名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6ヵ月まで)休業が可能です	2名 男性1名／25% 女性1名／100%
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	3名
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	2名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	41名

社内研修について

各種研修を実施

働きやすく快適な職場環境とするために、さまざまな研修を実施しております。研修は管理者に向けたものや全従業員に向けたものなど状況や必要に応じた内容を計画しております。2024年度の実施内容についてはP35をご覧ください。

永年勤続者表彰

功績をたたえ、6名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績をたたえ、永年勤続者として表彰しています。

グループ6社
永年勤続表彰者（2024年度）

勤続年数	対象人数
30年	4名
20年	1名
10年	1名
合計	6名



従業員の心とからだの健康管理

安全衛生の取組をグループ全社で行っています

従業員が50人以上の事業場で義務付けられている安全衛生委員会の設置は、株式会社リヴァックス、株式会社大栄衛生および株式会社大協の3社が対象となり、各社で安全衛生委員会を設置し活動しております。株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、グッドホールディングス株式会社および2025年4月からは株式会社swellにおいて、50人未満の事業場のため設置義務の対象とはなっていませんが、従業員の安全衛生についての活動を行っております。安全衛生委員会における主な活動は以下の通りです。

- ・ 時間外労働や有給休暇取得状況の共有および対策
- ・ 健康診断の実施状況の確認および推進
- ・ ストレスチェックの実施
- ・ 産業医による面談、フォロー
- ・ 職場巡視および職場環境の改善
- ・ 安全衛生にかかわる情報共有

上記の中でストレスチェックの実施状況については右上の表に記載のとおりですが、ストレスチェック後、希望者には産業医による面談指導の実施や、集団的に分析した検査結果をもとに職場環境の改善にも努めています。また、外部相談窓口も設けており、従業員が自分自身のストレス状況に気づききっかけづくりとメンタルケアに寄り添うサポート体制を整えております。さらに、メンタルケア対策として外部専門家によるオンラインカウンセリングやメール相談窓口を設置し、当グループ全従業員が直接いつでもどこからでも相談できるようにしています。

2024年度の各社ストレスチェック実施概要

大栄衛生

実施期間：2024年12月

対象者	受検者
正社員	71名
嘱託社員	2名
アルバイト	11名
合計	84名

大協

実施期間：2024年10月

対象者	受検者
正社員	36名
嘱託社員	1名
アルバイト	36名
合計	73名

リヴァックス

実施期間：2024年6月

対象者	受検者
正社員	47名
合計	47名

グッドホールディングス／
リリーフ／ダイキョウクリーン

実施期間：2024年8月

対象者	受検者
正社員	93名
嘱託社員	3名
アルバイト	24名
合計	120名

「総合健康リスク」が低い企業として
ストレスフリーカンパニーとして
表彰されました

グッドホールディングス、リリーフ、ダイキョウクリーンのストレスチェックにおいて、2024年度の結果がストレスフリーカンパニーとして認定されました。



アルバイトを含めたグループ全従業員を対象に
健康診断を行っています

産業医による健康診断を年に1回（深夜勤務のある従業員は半年に一回）、実施しているのに加え、希望者を対象にインフルエンザの予防接種を行っています。健康診断の結果がC～E判定など正常参考値を超えた従業員については、産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、社員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなどの健康支援に努めています。

採用活動

58名が新たに仲間に加わりました

事業拡大にともなう人員増強およびアルバイトの活躍支援に力を入れており、2024年度は中途採用者50名が入社、4名のアルバイトを正社員に登用しました。また、2025年度の新卒採用では、3名が4月に入社しました。

地域社会とともに

地域社会と地球のために

貢献できることを追求する企業グループへ



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考え方にに基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社会に安心、信頼される企業づくり

	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標
リヴァックス	・ 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 ・ 世の中の食品ロスを減らす	・ 食品ロス削減に取組む団体への寄付 ・ 施設見学の受入れ ・ メールマガジンの発行 ・ セミナーの開催 ・ 地域清掃活動への参加 ・ 環境学習施設へ食育関連図書の寄付	・ 安心信頼される事業の確立（環境自主基準・廃掃法の遵守、設備トラブル防止） ・ 資源循環社会への貢献（資源販売量増加、資源循環団体への寄付）
swell	－	－	・ パートナーが安心して働ける職場環境づくり ・ 設備清掃による社会の課題解決 実施件数：1,416件/年
リリーフ	・ 地域交流の実施 ・ 生前整理セミナーの実施 ・ 合同慰霊祭の開催	・ 生前整理セミナーの実施 ・ 合同慰霊祭の開催	・ 地域交流の実施 ・ 生前整理セミナーの実施 ・ 合同慰霊祭の開催
ダイキョウクリーン	・ 社会貢献活動への参加	・ 地域清掃活動への参加	・ 社会貢献活動への参加
大栄衛生	・ 社会貢献活動への参加	・ 地域清掃活動への参加	・ 社会貢献活動への参加
大協	・ 清掃活動の実施（週1回） ・ 子ども110番の登録 ・ 伊丹市高齢者地域見守り協定の登録 ・ 3Sパトロールの実施および改善（月1回）	・ 子ども110番の登録継続 ・ 伊丹市高齢者地域見守り協定の登録継続 ・ 3Sパトロールの実施および改善（月1回）	・ 子ども110番の登録継続 ・ 伊丹市高齢者地域見守り協定の登録継続 ・ 3Sパトロールの実施および改善（月1回）
グッドホールディングス	・ 社会貢献活動への参加 ・ 慈善団体などへの寄付 ・ サステナビリティレポートの発行 ・ 報告書賞への応募	・ サステナビリティレポートの発行 ・ こども農業塾参加 ・ チャイルド・ドリームへの寄付 ・ 地域清掃活動への参加	・ 社会貢献活動への参加 ・ サステナビリティレポートの発行

こども農業塾の開催

子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

こども農業塾とは、阪神間の中でも豊かな自然が残っている甲山にて、子どもたちが土づくり（落ち葉堆肥づくり）や米づくりなどの体験を通じて、自然の仕組みに関すること、自分たちの生活のことについて学ぶ取り組みです。

食はもちろんのこと、その基となる農業について学び、実際に体験する場を提供することも社会的責任の一つであり、次世代の育成にもつながるとの思いからスポンサーと

して主催、運営事務局であるNPO法人こども環境活動支援協会様と協働で開催しています。

2024年度は小学生のお子さんを持つ家族での参加を対象とし、10組のご家族と一緒に全5回の活動が行われました。

2024年度こども農業塾 1年間スケジュール

第1回	田植え・サツマイモの植付け
第2回	川遊び・夏野菜収穫
第3回	フィールドビンゴ・冬野菜の植付け
第4回	稲刈り・サツマイモ掘り
第5回	冬野菜収穫・修了式
オプション	企業の仕事見学・しめ縄作り



地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2024年度は、鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加し、近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献していきます。



廃棄物について学生たちに学びの機会を提供しています

関西大学第一中学校に環境学習を実施しました

未来の消費者に対する教育支援として、地域の教育期間に向け環境教育を積極的に開催しています。

株式会社リヴァックスでは、2008年度から関西大学第一中学校2年生に向けて継続実施しており、7月には産業廃棄物から再生エネルギーを生成する「西宮バイオガス発電プラント」の役割や仕組みについて学んでいただき、飲料製品の破碎後の容器やメタン発酵の原料となる食品廃棄物、原料の食品廃棄物がメタン発酵工程を経て、ニオイや色が変わっていく様子を実際に見ていただきました。

この環境学習が学生のみなさんにとって循環型社会の構築や脱炭素の取り組みに少しでも興味関心を持つきっかけになれば嬉しいです。



産学連携の活動

武庫川女子大学と包括連携協定を締結しています

グッドホールディングス株式会社は2024年2月より武庫川女子大学と社会的・文化的資源の活用および人的資源の交流を図り、幅広い分野で協力し、SDGsの推進、地域社会の発展、人材育成に寄与することを目的として包括連携協定を締結しています。

この連携協定を通して、産学共創の強化により地域の活性化と教育および人材育成などに寄与してまいります。



西宮市内の学生に向けて

『まちがく課題解決授業』を実施しました

西宮市全体が学校になる「Machigaku～まちのがっこう～」(通称：まちがく)のコラボ授業として、特別授業を実施いたしました。今回実施した課題解決授業は、リリーフのおかたづけとリユースの事業モデルから資源循環やSDGsについて学び、課題について学生目線で考え、解決策を発表していただきました。学生ならではの視点や考えに私たちも学ぶ部分も多くとても有意義な時間となりました。



企業スポーツ活動

セーリングチームが
関西実業団8連覇を達成しました

当グループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、数々の大会で好成績を収め、2018年10月の全日本実業団ヨット選手権では日本一となり、また2016年および2019年には、日本代表として世界大会に出場するなど着実に実績を積み上げています。

2024年7月に実施された関西実業団ヨット選手権では8連覇という快挙を達成し、全国大会への切符を手に入れました。



2024年度成績・活動報告

7月	関西実業団ヨット選手権	優勝(8連覇)
9月	全日本実業団ヨット選手権	9位
11月	全日本スナイプ級ミックスヨット選手権	
	森谷・佐田(大学生)ペア	35位

図書の寄贈を行いました

リヴァックスが食育関連図書の寄付をしました

株式会社リヴァックスが、2024年10月に食品ロスを削減するための教育活動の一環として、西宮市内の環境学施設3ヶ所に食育推薦図書を寄贈しました。

この取り組みは「環境学習都市にのみや・パートナーシッププログラム」の事業として認定されています。



食品ロス低減の取り組み

リヴァックスが食品ロス低減を行う組織へ
収益の一部を寄付しました

株式会社リヴァックスが、2024年8月にフードバンク関西(兵庫県神戸市)、9月に兵庫こども食堂ネットワークへそれぞれ前年度の収益の一部を寄付いたしました。

食品ロスが問題となっている中、廃棄飲料、廃棄食品等をリサイクルすることによりその解決の一翼を担ってきました。本来であればリサイクルをする前にリデュース、リサイクルされるべきものですが、事業の特性上難しいため収益の一部を食品ロスの解決に取り組む団体の活動資金として寄付することにより貢献したいという思いです。

今後も食品ロスを減らす活動に継続的に還元してまいります。

AEDを設置しています

鳴尾浜事務所にAEDを設置しています

職場における不測の事態の備えとしてAEDを設置し、近隣の住民や企業様にもお使いいただけるようにAEDマップ登録を行っています。

セーリングチーム

試乗会を開催しました

2024年9月8日に当グループの従業員、ご家族を対象に試乗会を開催いたしました。

優しい風と天気恵まれ、小さなお子様の多かった今回の試乗会にとって、絶好の試乗会日和となり、従業員やご家族のみなさまに大いに楽しんでいただくことができました。

懇親会では、いつも支援していただいている皆さまに御礼と、来るレースに向けての意気込みを伝える機会があり、皆様から温かいご声援をいただき、チーム一同さらに頑張ろうと気持ちを締めつけた一日となりました。





市民の方々からのメッセージ

市民のみなさんからお手紙をいただきました

コロナ禍においては、地域の方々からたくさんの感謝の手紙やお声がけをいただきました。それらは、感染リスクの不安がある中で私たちにとって大きな励みとなりました。直接手渡ししてくださったお手紙やごみ袋に付けてくださったメッセージカードは、作業員がすべて会社に持ち帰り、全社員で喜びを共有しております。

これからも地域の豊かな暮らしを支える社会インフラとして、誇りを持って事業に取り組んでいきたいと考えております。

消費者課題への取り組み

ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

株式会社リヴァックスの施設内にウェブカメラを設置し、ホームページにてリアルタイムの映像を配信しています。遠隔地からでも廃棄物の搬入状況をご確認いただくことで、廃棄物処理の透明性を実現しています。



廃棄物の搬入・計量場所

事業継続計画（BCP）の取り組み

BCPマニュアルの策定と改定に取り組んでいます

当グループでは、大規模地震や大型台風の発生を優先対応リスクの一つと位置づけています。私たちは、従業員とその家族の生命と安全を最優先に確保し、地域社会の早期復旧と顧客の事業活動への貢献を目指し、BCP（事業継続計画）マニュアルの策定と改定を進めています。また、2020年3月には新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、従業員の健康・安全の維持と社会的な使命を帯びた事業の継続を担保するために、新型コロナウイルス対策としてBCP災害対策本部を設置し、感染症による事業リスクや防止対策、感染した従業員への休業補償などについて協議、情報共有を行いました。

BCP訓練

2024年7月にBCP訓練を実施しました。台風および震災を想定した初動対応や安否確認を実施しました。

安否確認システム導入

人手に頼らず災害時に確実に従業員（正社員だけでなくアルバイトや派遣社員なども含め）の安否確認を迅速、確実に実施できるように、2020年9月に安否確認システムを導入しました。これにより、短時間での従業員の安否確認と情報伝達が可能となりました。

お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容やCSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方々が抱えている現状の課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。



2024年度に出展した主な展示会

開催月	出展会社	名称
7月	リヴァックス	第50回 プラントメンテナンスショー
7月	ダイキョウクリーン	CAFÉRES JAPAN 2024
11月	ダイキョウクリーン	ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO2024
3月	リリーフ	大阪葬祭協同組合 終活フェア

メディア出演・掲載実績

当グループ各社の取り組みを各メディアにて取材、掲載いただいております

リヴァックス

掲載媒体名・発行日	取材・出版社名
週刊循環経済新聞（2024年4月8日発行）	日報ビジネス株式会社
週刊循環経済新聞（2024年8月26日発行）	日報ビジネス株式会社
週刊循環経済新聞（2024年9月9日発行）	日報ビジネス株式会社

リリーフ

掲載媒体名・発行日	掲載内容
ならコープ機関紙 2024年5月号	リリーフ提携サービスを掲載
ちばテレビ「モーニングこんぼす」12月放映	ゆいごん白書セミナー紹介

セミナーの開催、登壇

啓蒙活動に努めています

当グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的に情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場を提供しております。

2024年度に開催、登壇したセミナー

リヴァックス

開催月	名称／主催
2024年7月	令和6年度兵庫県バイオマス活用推進大会／兵庫県農林水産部主催
2024年7,9月	バイオガス発電プラントオンライン工場見学／自社主催
2024年11月	「バイオガス事業」最新動向／日報ビジネス株式会社主催
2025年2月	第18回産業廃棄物管理実務者オンラインセミナー／自社主催
2025年3月	膜工学春季講演会・膜工学サロン／神戸大学主催

リリーフ

開催月	名称
2024年6月	生前整理お片付け学習会（大阪）
2024年7月	生前整理のいろは（埼玉）
2024年8月	“新”終活ツール「ゆいごん白書®」セミナー（大阪）
2024年9月	生前整理 お片付け学習会／おおさかパルコープ（大阪）
2024年10月	生前整理のいろは（東京）
2024年11月	実家のおかたづけ成功のコツ（神奈川）
2024年12月	はんしん高齢者くらしの予備校セミナー（兵庫）
	スッキリ終活の第一歩!! 簡単ゆいごん講座&相続相談会（東京）
	士希とのゆいごん白書セミナー（東京）
	生前整理お片付け学習会（大阪）
2025年3月	お片付けから始める終活（兵庫）
	健康寿命を延ばすー生前整理の進め方（兵庫）
	お片付けから始める終活（兵庫）
	生前整理のいろは（東京）
	お片付けから始める終活（兵庫）

社長ホットラインの設置

お客様からの大切なお声をダイレクトにお伝えいただけます

お客様のみならず、取引先様からのご意見や気づきを大切なお声として頂戴するために、グループ各社の社長へ直通するメールフォームをグッドホールディングスグループ全社のホームページで公開しております。寄せられたご意見は社長を含めて各部門にて共有し、今後のサービス向上に役立ててまいります。

グッドホールディングスグループは チャイルド・ドリーム活動を支援しています



Child's Dreamについて

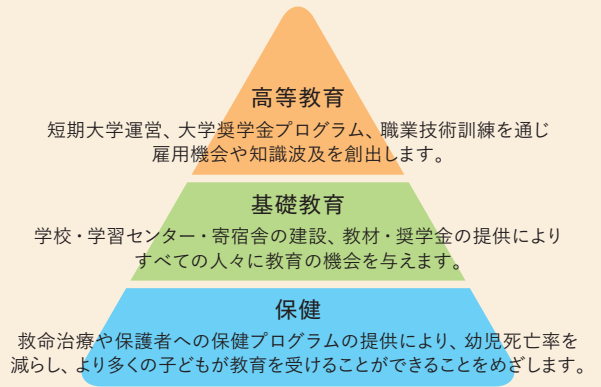
1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合（ASEAN）」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。

グッドホールディングスグループが支援する理由

当グループでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできる会社をめざしております。また、社員および従業員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。株式会社リリーフの「おかたづけサービス」で回収した不用品

Child's Dreamの活動について

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。その中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会のつながりの基盤を構築することができ、所得獲得および質の高い雇用機会を生み出すことができます。



人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子どもたちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's Dream」です。子どもたちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。

（家具、日用品など）を海外で再び活かす取り組みを2013年より始めました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、さまざまな社会問題や経済格差を目の当たりにしました。そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子どもたち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、グループ全体の売上の一部を寄付することとしました。

また、多くの子どもたちが健康問題を理由に十分な教育を受けることができない現状にあるため、Child's Dreamでは救命治療や保護者への保健プログラムを提供し、より多くの子どもが教育を受けることができるようめざしています。

Child's Dreamの活動実績（2024年時点）

高等教育	1,043名の学生に大学進学のための奨学金を給付しました。 898名の学生が職業訓練プログラムに登録しました。
基礎教育	4,139名の学生に高校または専門学校のための奨学金を給付しました。 26校の学校を建設しました。 29箇所の給水システムを建設しました。
保健	2,727名の子どもたちへ2,810件の症例に対して救命手術と医療支援を提供しました。

チャイルド・ドリームへの支援終了についてのお知らせ

当グループは、長年にわたりチャイルドドリームの活動を支援してまいりましたが、この度同団体の日本法人が立ち上がり、今後の活動支援の基盤が日本国内で構築されたことを受け、2025年12月末をもって支援を終了させていただくこととなりました。今後は、日本法人による更なる発展を期待するとともに、当グループは引き続き社会貢献への取り組みに注力してまいります。

苦情・事故

2024年度の苦情・事故は104件（苦情14件、事故68件、労災18件、危険事象1件、情報システム関連3件）でした。社会にとっても、働く従業員とその家族にとっても安全で安心な企業をめざし、再発防止に努めてまいります。

リヴァックス

※1 隣地企業様とは関係が良好であり、「少しでも気になったことがあれば言ってください」という関係の中で、苦情が計上されています。

件数	内容	原因	対策
苦情5件	隣地企業様より臭気の苦情 ※1	・排水処理施設前処理棟からの臭気漏れが原因 ・活性炭脱臭装置の活性炭による脱臭機能が弱くなっていて、脱臭装置通過後の臭気が処理しきれず残っていた	脱臭装置の活性炭を交換し、今後再発防止策として、以下内容を日次点検簿で管理 ・脱臭装置の差圧にて活性炭のつまりを1日1回確認し詰まりがあれば洗浄する ・脱臭装置の活性炭の月1度の定期清掃する ・脱臭装置の活性炭の脱臭能力を確認し、劣化により能力が低下していれば交換する
	取引先へ返却したパレット全体に汚損と異臭があると連絡を受けた	・搬入商品を保管する際に保管ヤード内の汚れが付着したと予想 ・当社作業員の入れ替わりもあり汚れの認識が薄れてしまっていた	以下内容を手順に追加し、作業員へ周知 ・パレット移動の際には全面に汚れがないか確認し、洗浄基準に沿って必要に応じて洗浄を行う ・汚れ確認が完了したパレットには確認済みの表示を貼付 ・回送車両のコンテナ、リフトの汚れも確認し必要に応じて洗浄を実施
	取引先へ返却したクレートおよび養生のストレッチフィルムに鳥のフンが大量付着していると連絡を受けた	発生1週間前より保管場所周辺にスズメが大量発生しており汚れが付着した（大量発生の原因は不明）	・クレート保管時は上部に同サイズのパレットを設置しスズメが対象物に止まらないようにした ・容器返却前にフンの付着や汚れを確認し必要に応じて洗浄する
	取引先へ送付した請求書に単価誤りがあり、相違発生の原因および対策の提示を求められた	処分費、運搬費ともに価格改定を実施したが、運搬費の改定価格が販売管理システムに反映できておらず請求時に誤った金額を計上してしまった	販売管理システムへ単価登録する際の手順を以下の通り定め、関係者へ周知した ・単価登録一覧表の作成と登録状況の共有 ・単価登録完了状況チェックの定期実施 ・販売管理システム登録内容のダブルチェックの実施
	取付管等清掃業務の実施において作業の遅れおよびその報告漏れがあった	・作業指示を受けた際に作業日の報告・連絡を失念していた ・取付管等清掃業務において社内で情報共有がなされておらず管理体制が十分でなかった	・作業指示を受けた際に案件管理表を作成し、配車責任者と共有し進捗および案件の管理を行う ・毎週金曜日に翌週以降の作業手配・連絡漏れがないよう関係者間で予定を確認する

物損事故15件	BSF（固形バイオマス燃料）積み込み後に車両のコボレーンを開いたまま出発し、出入口のシートシャッターレールに接触し破損した	積み込み待ち車両が並んでいたため慌てて退出しようとした行動と確認不足	本人への厳重注意と社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
	コンテナ設置のため車両後進中、上部シャッターボックスに接触し破損した	コンテナ設置場所の床面に注意が偏り、上部シャッターを見落としていた	本人へコンテナ交換時のリスクを改めて注意した
	荷入りコンテナ箱を吊り上げる際にフックとコンテナ箱が適正位置で引っかかっておらずコンテナ箱が車両リアバンパーに落下し破損した	外気温が高く車外に出るのをためらい、脱着時の作業手順に記載されている目視確認を怠った	・手順書、RA等読み返しによる再教育 ・フック先端を再塗装し見えやすく工夫した
	コンテナ箱のコボレーンに車両側から接続している電源ソケットを抜き忘れたまま走行し、振動により落下しソケット部分を損傷した	荷下ろし待ちの車両が並んでいたため、移動を優先し後回しにしたところ、失念した	社内で事故内容を共有し、注意を喚起した。抜き忘れた場合に路面に接触しないようコードの長さも調整した
	コンテナ箱脱着時に自転車テールランプが接触し破損した	接触する角度で引き上げの動作に入ってしまったため	・接触する角度の写真を撮り、感覚の周知を実施した ・操作手順を再指導した
	自社の側溝清掃現場において、協力会社が洗浄車の移動中に、ハンドル操作を誤り、民家の壁面に左後輪が擦れタイヤ痕をつけてしまった	坂道を下った先での左折時にハンドルを早く切ってしまった	注意喚起を行った
	排作出業終了後、狭いクランクを通行中にハンドル操作を誤り、左側の前方・後方に注意しすぎた結果、右側後方への注意が不十分となり、右側後方のオーバーハング現象により柱に後方のウインカーボックスが接触した	・作業を早く終わらせるために焦っていた ・逆向きで通った経験もあり問題なく通行できていたので、右方向は感覚に頼ってしまった	注意喚起を行った
	高速道路運転中、左側から割込みしてきた車両が急ブレーキをかけたため、その車両をかわすために右にハンドルを切ったところ、右側を走行していた車両の左側面に当社車両の右中央部および右後部が接触した	・割り込み車両が急ブレーキをかけたので、反射的に右ハンドルを切ってしまった ・右側の確認を怠り、注意が散漫だった	注意喚起を行った
	中央線のない道を走行中、対向車が来たので車両を左に寄せてかわしたところ、電柱と助手席側アンダーミラーを接触させ破損した	・対向車をかわせると思い込み左に寄りすぎた ・前方側面への不注意と減速不十分	注意喚起を行った
	高速道路走行中、飛来物によりフロントガラスにひび割れが発生した	・ドラレコで確認するも前方車両からの飛び石は確認できず、車間距離も空いていたため原因不明 ・鳥が横切った瞬間だったため、何らかの落下物が原因と推測（当時、同様の事象が起きていることも報道有り）	－
	カウンターリフト年次点検にて、マストを上げ下げする際の中央のシリンダーに傷および、オイルシール部分に割れを発見した	・チョッパーポンプの入替作業時に、フォークリフトを使用して移動した際、チョッパーポンプ下側を吊っていたため、ポンプ下側ケース軸部が振れ、リフトのシリンダーに接触したと推測 ・シリンダーがマストより少し内側にあるため、マストを上げる際の操作時に接触した可能性	危険予知活動を実施した
	10tコンテナ車で高速道路運転中、落下物であろうプラスチックの網かごとフロントバンパーが接触した	前を走行していたトラックが通過した際の風圧で、網かごとが車線中央まで飛ばされてきたが、周囲に他の車両がいたため、ブレーキや車線変更等の回避ができなかった	－
	洗車場で吸引車タンク内の水を排出中、真横で重機の積み込み作業が始まったため、排出位置を変更するために移動しようとした際に脱輪してしまった30cmほど冠水していたため、段差との境目が分からず、吸引車のフロントタイヤ（左右）が落鉢落置場に落ちて脱輪した	・段差がある事を聞いたことがあったが、正確な場所がわからなかった ・手元作業者は段差の正確な位置を把握していたが、運転手に伝えていなかった	柵の設置および他リスク箇所の洗い出しを行った
	駐車場から吸引車を出庫する際、左前方にハンドルを切ったところ、車体右側の電灯にリアバンパーを巻き込んでしまった（オーバーハング）	・ミラーによる周囲確認を怠りハンドルを切ったため ・車両を素早く出すことだけを考え、電灯の存在を失念した	注意喚起を行った
	25tウィング車を公道から敷地内（RMC）にバックで進入させる際、門の支柱と自社運転席後方が接触した	路上駐車トラックと助手席側の巻き込みに意識がいき、運転席側の注意が足りなかった	注意喚起を行った

労働災害6件	自社メタンブラント脱水機棟の配管が破損し、修理前の応急処置としてビニールシートとバケツで対応していたが、シート剥がれにより漏れ出した高分子凝集剤に滑って転倒し、負傷した	応急処置の不足とシート剥がれに慌てて対応したため	配管修理は翌日完了のため追加処置なし
	粉体吸引車の付帯ホッパー内の汚泥をかき出し作業中に熱中症により気を失い倒れた	作業特性上、全身防護服を着用しており、熱がこもってしまった	・至急作業を中止し、負傷者は救急搬送により病院で治療を受けた ・全身防護服でも使用できる冷却ベストを使用する ・WBGTの計測を行い、数値に基づいた休憩時間を設定する
	粉体吸引車ホッパー内の汚泥のかき出し作業中に汚泥が一度に落ちてきた重みで勢いよくホッパーの蓋が開き、反動で蓋が戻ってきた際に指を蓋と本体に挟み負傷した	ノッカー（ホッパーやタンク内の粉粒体の付着や詰まりを防止するための装置）を使用できない現場で手作業で下からかき棒を使用するしか方法がなかったこと、また今まで問題なく実施できていたため注意意識が薄かった	ホッパーの両サイドからかき棒を入れて作業ができるようホッパーを加工する
	吸引車で汚泥を排出中、バルブを右側から調整しようとしてホースを跨いだところ、足が引っ掛かりバランスを崩し、排出バルブ付近に左手親指を当ててしまい骨折した	バルブに意識がいき、足元ホース側への意識が不十分だった	注意喚起を行った
	派遣社員に荷入りベール缶の移動作業を指示し、後日本人より腰に違和感の申し出があった（作業時に腰へ違和感があったが本人判断で回復を待ち、後日に受診したところヘルニアの診断を受けた）	持病（ヘルニア）をもっていたことを知らず、基準内の重量物を業務範囲の認識で作業指示していた	・派遣元へ業務内容や注意事項の詳細を従来以上に伝え、派遣スタッフの選考をしてもらう ・派遣先責任者にも業務内容に相違ないか確認を行った
	側溝を掃除する際に、グレーチングの差し込み口が変形しており、取り外しが困難だったため、手で力づくで持ち上げたことにより腰に負荷がかかり痛めた	作業時はコルセットを着用していたが、上長からの無線で名指しの指示があり、単独かつ人力で行わなければならないと思いき無理をしてしまった	リスクアセスメントの再教育を行った

リリース

件数	内容	原因	対策
苦情1件	顧客宅の整理作業中、取り置き予定の荷物を誤って廃棄してしまった	取り置き時のルールが徹底されていなかった	取り置き時のルールを徹底する
	顧客宅の整理作業中、大型本棚の移動の際に本棚の扉が開き、勢いで扉の蝶番が破損してしまった	近い距離での移動だったため、荷物移動時のルールを怠った	・荷物移動時のルールを徹底する ・事故内容を社内周知し、注意を喚起した
	顧客宅でエアコン取外し作業中、取外し対象ではないエアコンの配管を切断してしまった	作業終了時間が迫り、社員ではなく、就業経験ある派遣作業員に配管切断作業を依頼した	・エアコン取り外しの際はいかなる状況でも社員着手のルールを徹底する ・室外機の配管状況の確認を強化するよう注意喚起した ・現場における重要作業の設定を行い、優先着手するよう社内で注意喚起した
物損事故8件	関東事業所の敷地内にて通勤で使用している自家用車がパンクした	現場作業の荷下ろしの際に、釘が落ちたままになっていたため	・定期的な清掃を実施しガラスや釘などの危険物を除去する ・駐車位置を荷下ろし場から離れた位置に停めるようにする
	2tトラックで移動中に左ミラーを電柱に接触させてミラー部分が破損した	眠気がある状態で運転をしたことにより不注意が発生したため	・眠気を感じた際は休憩を15分程取り体を動かすことや仮眠を行い眠気を抑える ・カフェインが入った食べ物、飲み物を摂取し眠気を抑える
	2階からの大型家具搬出中、階段を下る際にバランスを崩し壁紙に傷が入った	・写真見積りにもかかわらず、家具がある場所を事前に確認していなかったため ・物量が少なく、室内養生準備を怠ったため	・2階から搬出する際は少量でも養生を徹底する ・写真見積もりの場合は保管場所を事前に確認する ・階段が狭い場合は家具を分解する ・階段部分も事前に写真等で状況を把握する
	マンション敷地内にトラックを駐車する際、駐車止めのボールの蓋を踏み破損した	蓋が完全に閉まっているのを確認せずに進入してしまった	駐車止めのボールを外したら必ず蓋を完全に閉めた状態で進入する
	通りにくい廊下を搬出中、テーブルを縦にした際に大理石部分が滑り落ちてフローリングを破損した	作業時の注意不足	・滑らない手袋などを着用する ・毛布などを準備して細心の注意を払う
労働災害2件	業務利用のPCをトラックで乗り上げてしまい破損した	地面に置いて作業中、目を離した際に車両運転手が気付かず乗り上げてしまった	PC利用者に厳重注意を行い、PC取り扱いの見直しを実施した
	雑草除去中に左足脛部分を鎌で裂傷した	現場リーダーの指示ではなく、アルバイトの自己判断で作業を行ったため	・雑草を刈る時は鎌を使用せず、専用の枝切りばさみを使用する ・現場リーダーの指示以外のことは行わない ・作業前の注意事項説明を徹底する
	雨天作業中、廃棄物をごみ収集車に積み込む際に、手を滑らせ左手人差し指を負傷した	作業時の注意不足	廃棄物を扱う際は目視で必ず確認をする
危険事象1件	整理作業の臨時ごみ回収時にバックカーから火災が発生した	スプレー缶が可燃ごみに混ざっていたため	是正処置と安全マニュアルを作成、周知

ダイキョウクリーン

件数	内容	原因	対策
苦情4件	グリストラップ清掃完了後、臭気防止の為の水溜めで水道の止水を忘れてしまった	止水確認を含めたチェックシートの運用が徹底されておらず、各自の認識や対策方法が形骸化していたため	・使用する水道を各テナントで1箇所に限定 ・使用した後に止水が確認できる写真を撮影 ・KY(危険予知)に止水確認の項目を追加し全施設で実施
	グリストラップ清掃完了後、臭気防止の為の水溜めで水道の止水および照明の消灯を忘れてしまった	・作業完了後の最終点検を行っていなかった ・止水、消灯、施錠の確認用のチェックシートを適用しているが、未確認のままチェックしているなどルールの運用が当日の責任者任せになっており不十分だったため	・チェックシートの内容を変更し、全工程完了後に作業で入った全店の止水、消灯、施錠の最終点検を実施した ・点検時に止水、消灯、施錠全て写真撮影を行うルールに変更し、一部人員の入れ替えを行い既存の当日責任者の上に役職者を配置した
	グリストラップ清掃完了後、水道の止水および照明の消灯を忘れてしまった	思い込みによる確認不足	作業完了後、指示票に「止水、消灯を確認しました。○年○月○日○時○分」と記入する
	作業車で一般道を走行中に車線変更を行おうとした車両に対し、クラクションを鳴らして譲らなかったと連絡が入った	当人は、車間距離が近く危険だと感じたためクラクションを鳴らしたが、その後も相手への配慮ある行動を取っていなかったため	・ドライブレコーダーの映像を確認しながら個人面談を実施 ・基本はクラクションを鳴らさず、十分に車間距離を取って安全運転を行いクラクションを使用する必要のない運転を行うことを再度周知

物損事故14件	グリストラップ清掃完了後、出発の際にバキューム車に収納している台車を公道に落としてしまった	3種類の固定具（ラッシングベルト、ゴムフック、ワイヤー）でバキューム車に固定するルールだったが、3種類とも固定していない状態で発進してしまったため	・各作業車内に注意書きを貼付し、発進前の意識づけを実施した ・作業完了後、片付けた者ととは別の者がチェックシートを用いて発進前の点検を行うことを徹底、習慣化するよう指導した ・台車に反射材を貼り付けて二次被害発生の低減対策を実施した
	グリストラップ清掃完了後、移動式冷蔵庫を元に戻した後、冷蔵庫内の商品等が倒れていないか確認するためドアを開けた際、内容物の入ったビッチャーが落下し、飛散した	冷蔵庫を移動したことにより、中の商品がドアにもたれかかっていることが分からず、ドアを開けてしまったため	こぼれたり倒れたりしてしまう危険がある商品等は、事前に移動を依頼するよう周知した
	自社駐車場内で作業車両を所定位置に駐車した際に、誤ってクラッチから足をはなしてしまい、後方の作業車と接触した	周囲の状況および2名での確認不足	バックモニターの確認および2名での確認、誘導作業をするよう徹底、指導した
	自社駐車場内で作業車両を移動する際、後方にあった雨除けアーケードの鉄骨部分に接触した	周囲の状況および2名での確認不足	バックモニターの確認および2名での確認、誘導作業をするよう徹底、指導した
	グリストラップ清掃作業時、テナントの厨房内の床に置いてあった空の酒瓶を転倒・破損させてしまった	入店の際に危険箇所の声掛けは実施していたが、延ばしたバキュームホースの長さが足りず、再度引き延ばしを行った際、ホースを持ったまま後ろ向きに移動したため	・危険箇所や物品の声掛けを行い、あらかじめ移動できるものは定位置の写真を撮影したうえで移動させてから作業を行う ・2名以上で周囲を確認しながら作業を行う ・自覚の確認欄を設けたKYシートに事故事例を記載し都度意識づけを行う
	店舗の水道を借用して清掃中、ホースの先端をつまんで水に圧力をかけたところ、水道蛇口の根本部が折損した	水道蛇口の経年による劣化があったため	取引先に確認し、経年劣化と認められたため、施設側に修理を行った
作業事故1件	商業施設内作業中、テナント厨房内の床面の補修部分に足跡をつけてしまった	事前に施設側からの共有と厨房内に立ち入り禁止などの注意喚起の措置が取られておらず、床面が乾いていないことを知らずに通過してしまったため	KYシートに今回の事故事例を記載し認識を全員に共有、周知した
	自社駐車場内で作業車両を所定位置に後進停車する際、後方に駐車してあった作業車両のウィンカーランプ部分に接触した	サイドミラーで確認を行いながら後進していたが、入れ替えのため、あらかじめ前方に移動させていた自家用車に気を取られてしまったため	・確認しながら駐車作業ができるように1人乗り業務を減らす ・自家用車を速くに移動させて入れ替え作業スペースを広く確保する
	作業現場のカラーコーンを作業車両で轢いてしまい、破損した	・周囲の確認不足 ・進入時と違うルートで移動しようとして車両を切り替えた際にカラーコーンの存在を忘れたため	・1人乗りの場合は出発前に周囲をライトで照らして経路の確認を行ってから車両を移動させる ・2人乗りの場合は1人が周囲を確認し誘導・声掛けを行う
	作業現場へ運転中、交差点で停止しようとしたところ路面の凍結によりタイヤが滑り、前方に停車中の車に衝突した	積雪状態のため普段よりも早めにブレーキを行ったが、タンク内に約2t程の積載あったこと、スリップしたことにより制動距離が伸びたため	・タイヤの摩耗状態の点検の重要性の周知した ・雪道を走行する際は、十分に車間距離を取った早めのブレーキを行う旨の周知した ・タンク内の積載があった場合のブレーキ操作について周知した
	グリストラップ清掃完了後、次の店舗へ向かう前に、サイドブレーキを解除したまま指示書を確認していたため、傾斜のある場所で車両が徐々に後退し、後部が店舗の駐車場の庇に接触した	・サイドブレーキを解除した状態で指示書を確認し、傾斜があることに気付かなかったため ・現場状況の確認不足	・再度指示書を確認する際は、サイドブレーキを確実に実施する ・駐車する前に現場の状況を確認し、作業終了後の発進前にも再度状況を確認することを徹底するよう指導した
	高速道路2車線の左側を走行中、ハンドル操作を誤り、左側壁へ接触した	走行中、助手席に置いていた書類が足元に散乱、走行しながら手を伸ばし拾おうとしてハンドル操作を誤ったため	書類が散乱しないようバインダー等に挟み、走行中落下しない場所へ置く
人身事故1件	現地調査時にテラスのウッドデッキの開口部を欠損した	ウッドデッキの床下配管を見るため、自己判断で開口部にマイナスドライバーを挿し込み、無理に開けようとしたため	自己判断で行動せず、些細なことも報連相をするよう徹底、指導した
	掃除口のフタを開けるため、周辺にあるプラスチック製バレットを移動させたところ、給湯器の配管とバレットが接触し配管が破損した	狭い場所でバレットを移動する際に、配管の位置を確認していなかったため	作業の為に物を移動させる際は周囲の状況を事前に確認する
	ポータブルバキューム機に必要な電源を得るため、店内のコンセントを使用したところ、レジ専用のコンセントであったため、店舗のレジのブレーカーが作動した	使用したコンセントに赤字でUPSと記載があったが使用禁止のコンセントとの認識がなかったため	・立会い者で使用可能なコンセントを確認してから使用する ・何らかの記載があるコンセントは使用しない
労働災害1件	作業現場に向かう途中、交差点右折レーンで右折したところ横断歩道を歩行中の通行人に気づかず車両前方部分に接触、衝突した	夜間で外灯のない見通しの悪い交差点であったことと、車両のピラー（フレーム）に歩行者が重なって死角になり、気づくのが遅れてしまったため	・最終行の徹底を指導した ・臨時のMTGを実施、課員全員に事故内容を共有、注意喚起した
	店舗バックヤードに入る際にドアの開錠番号を失念していたため、塀を乗り越えて侵入し両足で着地したところ、右足の膝を痛めた	・開錠番号が記載された資料を持参しておらず、社用携帯電話から確認できることを失念していたため ・入社したばかりでまだ作業に不慣れな中、何とかしないという焦りがあり、上長等に連絡せず独断で作業を行ったため	・配車表や指示書の事前確認の徹底、指導した ・トラブル時等の連絡ルールを再周知した

大栄衛生

件数	内容	原因	対策
賞賛の声1件	甲風園にお住いの市民の方から感謝の声をいただいた。庭木を剪定した枝葉をごみステーションに出す際に袋が破れてしまったが、自社清掃員が散乱した枝葉を一掃に清掃して持って行ってくれ、親切な対応に感動したと、感謝のお電話をいただいた	－	－
物損事故21件	取引先店舗にて段ボール収集の際、天井が低く段ボールが照明器具に接触してしまい破損した	・事前の確認を怠ったため ・状況の把握が出来ていなかったため	目の前の状況だけでなく頭上の確認も慌てず十分に注意をはらって作業を行う
	可燃ごみの収集時、一方通行にて後続車を道を譲ろうと躲した際にごみ収容ボックスに車両の右後方が接触した	道を譲ろうと躲した際のハンドル操作ミス	障害物がなにか周りを確認し作業を行う
	不燃ごみ回収時、狭路で後進中に民家の外壁に車両の左後方が接触した	運転手による不注意	・助手の誘導に従い安全に運転する ・慣れた道でも気を抜かない運転を心掛ける
	通常転回するエリアに車両があったため、違う場所での転回になり、茂みの中の水道の蛇口に気付かずバック時に接触した	いつもと違う場所で転回した際の事前の確認不足	助手にしっかりと確認してもらい余裕を持った転回を心掛ける

物損事故21件	ごみ収集完了後、乗車する際に対向車が正面に停車しており、交わすために左にハンドルをきりながら前進した際、右側の電柱と車両の右後角のカバーが接触し破損した	事前の確認不足	電柱などがある場合は車両を寄せすぎず、動かす際は死角になる所は助手に誘導して障害物を避けるように注意を喚起した
	新人運転手の教育の際に処理施設内で後進時、ピットのゲートの扉に右側のリアウinkerが接触しウィンカーが破損した	・運転手の確認不足 ・助手の合図の確認を怠ったため	・助手の誘導に従い安全に運転する ・ゲートが開ききった際に安全に後退する
	自家用車で通勤時、交差点を右折する際にバイクと接触した	運転手の確認不足	ゆとりを持った運転を心掛け安全確認を怠らないようにする
	車線変更の際に自社車両の右後方部と後続車両の左ミラー部分が接触した	運転手の確認不足	車線変更の際、十分な車間距離をおき安全に車線変更をする
	一般道路走行中、一時停止後に徐行発進していたところ、左側から高齢者が運転する自転車が接触してきた	相手側は自車が停止していると思い横断しようとしていたが自車がゆっくりと動いてしまったため	発進前に再度安全確認を心掛ける
	後方から来る車両が通行できる様に電柱ギリギリに駐車し、回収を終えて発進した際、電柱とミラーが擦れ町名表示板が歪んだ	収集後、発進前の確認不足	・発進時は周りを確認してから発進を行う（運転手） ・車両に乗り込む際に障害物などがある場合は運転手に一声かける（助手）
	タクシー車庫内で普段は空いている駐車スペースに車が何台も止まっており、後ろから車がきたため通常と違うルートを通った際、左側に止まっていた車両に右後方部が接触した	・車両の大きさを忘れ、いけるであろうと目視した ・ミラーの確認不足	普段と違う状況の際は、助手と車両の動きを共有し助手に誘導してもらいながら運転手は周りの障害物を気をつけて車両を動かす
	ごみ置き場の入口を開ける際、内側の地面に刺すストッパーを外さず開けてしまい、アルミ製だったため留め具が曲がった	確認不足	今後は門が閉まっている場合は門前で必ずお客様に連絡し開けてもらう
	収集場所へ向かう途中、緊急車両が10台程停車しており、警察官の誘導に従い進んでいたが、道幅の狭いカーブで、崖に注意をとられ自社の左ミラーと消防車の後部右側が接触した	確認不足	ミラーを格納し助手と確認しながら進む
	ペットボトル回収時、コンテナをスライドで移動させたため乗用車に接触した	自己都合による不注意	再教育および再発がないよう全従業員に対しての周知を徹底した

物損事故21件	ペットボトル収集後、ごみステーションから後進出庫の際に右側に寄せすぎでしまい、ブロック塀と自社車両の右ミラーが接触し、ブロック塀が破損した	運転手の確認不足	後退する際は周りを確認してから発進し助手と左右前後確認しながら進む
	可燃ごみ収集時、反転式コンテナ使用中に落ちていたごみを取ろうと目を離し、気を取られて動作中の回転板にダストBOX巻き込んで破損した	回転板が動作中にも関わらず目を離し気を取られたため	反転式装置にてダストBOXを上げ下げする場合は一旦回転板を止めてから操作するように改めて周知した
	段ボール回収時、敷地内ごみステーションに後進駐車する際、助手席側ドア横のサイドウinker部分が停めていた車両のフロントバンパー部に接触した	運転手の確認不足	ゆとりを持った運転を心掛け、間隔が狭い場合は無理な進入を避けて手前で停車する
	可燃ごみ回収時、マンション内のごみステーションに後進入庫の際にハンドルを内に切りすぎで後輪タイヤで縁石に乗り上げてしまい、破損した	・住民の出庫を優先する際にハンドル操作を誤ってしまった ・運転手の確認不足	入出庫する際に今までの進入経路では間口が狭いため、進入方向を変更して対応する
	取引先敷地内の駐車車両に気を取られ、正面玄関入口の屋根と自社車両のルーフが接触した	対象物および車高の認識不足	普段と違う状況の際は、一度降車し障害物確認と高さ、幅の確認を徹底するよう指導した
	ごみ回収後に出庫する際、左側に駐車車両2台が止まっていたため、右折がいつもより小回りになってしまい内輪差が大きくなり右側植え込みの段差に脱輪した	・普段と違う環境にも関わらず、よく確認せずに右折した ・目視での確認不足	・目視での確認の徹底と普段と違う環境の場合は更に降車して確認をする ・助手に誘導してもらいながら車を動かす
	T字路を左折する際、右側にハイエースが路上駐車しており見えづらい状況だったため、一旦停止し前に出たところ、右から来た軽自動車がハイエースを交わした後に左に入って来たため、自社車両の右側前方と相手方左側後方が接触した	相互の不注意と確認不足	運転手にとって死角になる所が多い場面では、助手に誘導してもらう
	収集現場に向かう際、自転車を確認せずに車道に出てきたため避けたが、自社のトラックが近かったため、避ける事が出来ず、自社車両のボディーに接触した	・相手側の確認不足 ・事前の危険予測を怠ったため	・救急車を呼び救護対応を行った ・社内共有のうえ注意喚起を行った
	ごみステーション手前で助手を降ろし左折する際に左フロントタイヤで助手の右足の踵と接触し、負傷した	・運転手、助手の確認不足 ・降りた際に狭路だったが前方に進み運転手の死角に入ったため	車両の死角に入らず作業マニュアルに基づいて作業を行う
	可燃ごみを回収時、45ℓのごみバケツの中から可燃物の袋を掴み取り出そうとした際に割れたお皿が入っているのに気づかず右手中指を切ってしまった	作業時の確認不足	可燃物への異物混入をお客様に連絡、分別徹底を再度周知を行った

労働災害4件	不燃ごみ回収時、ごみステーション入り口付近にあるフェンスのバりに頭部が接触し裂傷した	周囲の確認不足	周りを確認して障害物がないか確認して作業を行う
	ダンプ車積み込み作業中、足元に置いていた人形のショーケースの存在を忘れ踏んでしまい足首を裂傷した	足元の確認不足	積み込み作業中も足元など周囲の状況を確認しながら作業する

大協

件数	内容	原因	対策
苦情4件	割り込み等の危険運転や車両後方に包丁が見えて危ないと連絡が入った	・不燃物回収時、慣習で後部の磁石などに包丁などを引っ付けていた ・周囲への安全配慮が足りていなかった	・周囲から見えず落下を防止するために車両のサイドポケットに格納する ・車両の割り込みについてはドラレコで確認したが、危険運転の行動は見られず安全運転をしていた
	取引先で廃棄物ではない物を回収してしまった	廃棄物置き場が2ヶ所あると誤認したため	行き慣れていない場所の場合などは営業に必ず確認してから作業にあたる
	取引先で廃棄物ではない物を回収してしまった	初めての取引先で担当者が不在であったが、確認をせずに積み込んでしまったため	行き慣れていない場所の場合などは営業に必ず確認してから作業にあたる
	運び出し作業中にエレベーターホールの床に傷を付けてしまった	慣れた作業のため、その場で持ち上げずに引きずったため	一ヶ所に集める場合などは養生マットなどを用意し、直置きしないよう注意した

物損事故5件	ごみを回収するため左に寄せた際、側溝のグレーチングが跳ね上がり車両のサンドバンパーと備え付けのかが破損した	歩行者用の耐荷重グレーチングという認識がなく、ギリギリまで寄せてしまったため	・ステーションには余裕を持って停車する ・側溝のグレーチングには基本的に乗り上げない
	左側ミラーが電柱と接触し、ミラーが破損した	狭路だったが、通りなれた道で油断したため	・慣れた道であっても大丈夫と思込まず、丁寧な確認をする ・障害物を直前で避けるのではなく手前から余裕を持っておくこと ・類似事故で発生した二次被害の事例を周知し注意を喚起した
	自社敷地内駐車場で後進駐車をする際、右側に駐車中の車両に気を取られ、雨水パイプと接触して破損した	業務車両の帰社時間で混雑している状況の中、一度で入庫しようとしたため	狭い場所などは一度で入庫をせず、体勢の立て直しができる場合は直進方向でバックまたは前進するよう指導した
	前方にトラックが停車していたため、少し後進しハンドルを右へ切りながら前進したところ、車両左側後部と歩道のフェンスが接触し破損した	停車車両に気を取られ後方の確認不足	状況が変わっている場合は特に全方向の安全確認を行ってから車両を発進させるよう周知した
	回収時に左へ寄せ過ぎたため、車両左後方とガードレールが接触した	・年末で門が閉まっておりいつもと状況が違っていた ・障害物および状況の確認不足	いつもと違う状況であればまずは状況の確認をしっかり行い、次の行動へ移す
人身事故1件	コンテナ車で処分場へ向かっていたところ、左折時に自転車に気づかず車両左側前輪部と自転車の前輪が接触し、相手方が転倒し負傷のため救急搬送された	・視認範囲が良好な道路での油断 ・信号の手前の道をショートカットで使用した ・目視確認不足	・ショートカットはせずに信号を待つように周知、指導した ・左折をする場合は交差点よりも手前で歩道の状況を目視確認して交差点手前でも目視を怠らないよう指導した
	ごみの回収時に長尺物があり、ボタン操作を行いながら徐々に巻き込んでいたが、巻き込んだ瞬間に縦方向に変形し、左中指を挟み負傷した	ゆっくり徐々に巻き込めば当たってもけがは無いという思い込みで長尺物を投入口にに対し斜めに入れたことで、人への距離が近くなったため	・長尺物を巻き込む場合は投入口にに対し垂直に入れる ・周辺に人、物が無いことを確認のうえ巻き込み作業を行う
	土を運び出す作業中に気分が悪くなり、熱中症の症状を発症した	水分補給を怠ったため	・水分補給はこまめにとることを再周知した ・作業服を通気性の良い素材に変更した
労働災害5件	不燃ごみ収集中、ガス缶に穴をあける作業をしていたところ、炎が上がったが異常を感じなかったため作業を継続したが、顔に違和感を感じたため病院へ行ったところ火傷を負っていた	ガス缶をホッパーの受け口であけていたためガスが溜まっている状態であったため	ガス缶は穴をあけずに横積みし、清掃工場に持ち込む
	降車時にバランスを崩し、転んだと同時に右手を着いてしまい右手小指の根元を骨折した	加齢、認識との乖離および筋力の低下	加齢とともに筋力が落ちていき、維持するためには筋肉に負荷をかけるしかなく、仕事以外でも体を動かす習慣をつけた方が良いとの産業医の意見を周知した
	飛散したごみを早く拾おうと思い、投入口を見ずにごみを入れた際に回転盤に手首を挟まれた	ごみの飛散で焦っており、投入口を見ていなかったため	あおりは必ず下ろして作業を行い、ごみ投入時は必ず投入口を見てから入れるよう指導した

グッドホールディングス

件数	内容	原因	対策
物損事故1件	自社洗車場の蛇口が潰れ、配管にヒビが入ったことによる水漏れが発生していた	発生時の報告がないため洗車場利用時に車両がぶつかったと推測	社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
情報システム障害(限定的、軽微障害)1件	メール送信時に大幅な遅延が生じた	HENNGE Email DLPによる障害	2025年2月20日、HENNGE社により原因特定・対処され解消済み
情報セキュリティ事故1件	社用携帯電話をごみ処理施設に落下してしまい、回収不能となった(情報の漏洩は確認されておりません)	胸ポケットに入れたまま作業しており、不注意により落としてしまった	・遠隔ロックにより利用できないよう設定した ・作業中はチャックまたはボタン等があるポケットで管理するよう周知、注意喚起した
	前日終業時に社用携帯を鞆に入れて帰宅後、翌朝に紛失していることに気付いたが、紛失場所が不明のため警察に届出を行った(翌日中に回収済み、情報の漏洩は確認されておりません)	不注意により紛失してしまった	・遠隔ロックにより利用できないよう設定した ・落下防止ストラップの取付および鞆の内側ポケットに保管するようにした ・社内で事故内容を共有し、注意を喚起した

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P34、35、37、52	6.4.7	職場における人材育成および訓練	P23、29、45~46	6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P21、39
6.3	人権		6.5	環境		6.7.5	持続可能な消費	P2、3、23
6.3.3	デューディリジェンス	P33	6.5.3	汚染の予防	P18、41、37、39	6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決	P51、52
6.3.4	人権に関する危機的状況	P57	6.5.4	持続可能な資源の利用	P15、17、23、28、39		消費者データ保護およびプライバシー	
6.3.5	加担の回避	－	6.5.5	気候変動の緩和および気候変動への適応	P8、17、41	6.7.7	消費者データ保護およびプライバシー	P35
6.3.6	苦情解決	P35、52、57	6.5.6	環境保護、生物多様性、および自然生態系の回復	P48~50	6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	P27、29
6.3.7	差別および社会的弱者	P9、45	6.6	公正な事業慣行		6.7.9	教育および意識向上	P27、49、50
6.3.8	市民のおよび政治的権利	－	6.6.3	汚職防止	P35	6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	
6.3.9	市民のおよび政治的権利	－	6.6.4	責任ある政治的関与	－	6.8.3	コミュニティへの参画	P49
6.3.10	労働における基本的原則および権利	P9、45	6.6.5	公正な競争	－	6.8.4	教育および文化	P48~50
6.4	労働慣行		6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P15、20	6.8.5	雇用創出および技能開発	P29
6.4.3	雇用および雇用関係	P45、48	6.6.7	財産権の尊重	－	6.8.6	技術の開発および技術へのアクセス	P11
6.4.4	労働条件および社会的保護	P45、48	6.7	消費者課題		6.8.7	富および所得の創出	－
6.4.5	社会対話	P27、35	6.7.3	公正なマーケティング、事実 に即した偏りのない情報、および公正な契約慣行	P37、52	6.8.8	健康	P9、47、48、57
6.4.6	労働における安全衛生	P15、21、43~44、47				6.8.9	社会的投資	P48~50、57



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社swell

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄衛生

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社

経営サポート部

〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号

TEL:0798-61-1983 E-mail:csr@goodhd.co.jp

